ISSN 1880-3067

大阪歴史博物館年報

平成27年度

大阪歴史博物館

平成28年6月

目　次

はじめに …… １
展観事業 …… １
資料収集 …… ５
資料のデータ整備・特別観覧・貸出し …… １０
教育普及事業 …… １１
学校連携事業 …… １３
ボランティア関連事業 …… １３
連携事業・「大阪歴史博物館友の会」との連携…… １４
広報宣伝活動 …… １５
刊行物 …… １５
調査研究活動 …… １５
平成 27 年度入場者数…… ２０
委嘱・派遣・視察 …… ２１
条例と規則 …… ２２
運営組織 …… ２４

はじめに

平成27（2015）年度の当館をめぐる環境で大きく変化したのは、なんといっても外国人観覧者の急増であろう。総入場者数は前年度比で約2割増、ほぼ40万人に達した。これにともない展示説明の外国語対応を進めているが、さらに工夫が必要である。それ以外に動線表示、トイレ、休憩所、避難方法・経路、禁止事項その他の当館の利用にかかわる外国語表示やユニバーサルサイン、館内放送（特に緊急避難時）などにも注意する必要がある。外国の皆さんがどのようなことを求めているのかよく検証し、印象に残る博物館となる努力を積み重ね、来館された方の親戚や知り合いが次に来館していただけるようにしていきたい。

一方、来館者の多くが大阪市民をはじめとする日本の皆さんであることは事実である。特別展・特別企画展の振り返りを、館全体でこれまで以上におこない、よりよい展示を常に工夫し、大阪市民や日本の皆さんに支持され愛される博物館づくりを進めたい。

おりしも来る平成28年度は、開館15周年の節目にあたる。これまでの当館の活動を見直し、次の節目に向けて当館の使命と目標を点検していくべきよい機会である。建物・設備のハード面以外にも、上記の点のほか、常設展示のあり方の見直し、広報の仕方、博物館資料の画像データ公開促進、ボランティア活動の拡充、友の会との連携強化、ミュージアムショップやグッズの充実その他が考えられる。

館長　栄原 永遠男

展観事業

常設展示

●10階：古代フロア

「難波宮の時代」ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿を実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を上映している。また映像の合間には、展望窓から実際の史跡公園を展望することができる。実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている5世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。

●9階：中世近世フロア

「大坂本願寺の時代」では中世大阪の町の様子を、大坂本願寺御影堂や町並みの復元模型、実物資料などから紹介している。「天下の台所の時代」ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居といった復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料を紹介している。

●8階：「歴史を掘る」フロア・特集展示室

「歴史を掘る」フロアでは発掘現場の再現を行い、ワークシートやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。特集展示室では、館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、1～2ヵ月程度の期間で実施している。

●7階：近代現代フロア

「大大阪の時代」ハイライトコースでは、近代都市・大阪の諸様相を、実寸大で再現した公設市場・町工場・「心ぶら」などから紹介している。実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料を多方面から紹介している。

●難波宮跡遺跡展示

博物館・NHK大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）があった。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群16棟のうち1棟が復元展示されている。

●タイム・カプセルEXPO’70

昭和45年（1970）日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業（現パナソニック）により、当時の生活・文化を代表する2,098点の品々を収納したタイム・カプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には2基が埋設されているが、当博物館の1階北東のエスカレーター奥に、これと全く同じものを展示している。

常設展示更新の状況

階	コーナー	内容	展示期間
10	古代難波の序章	加耶土器・百済土器	4月28日～
10	特設展示コーナー	古代の加美遺跡	4月 1日～ 5月18日
10	特設展示コーナー	後期難波宮の鴟尾	5月20日～ 9月28日
10	特設展示コーナー	5～7世紀の日本国内の交流を示す土器	9月30日～ 2月29日
10	特設展示コーナー	飛鳥時代の祭祀のあと－住友銅吹所下層の木製品－	3月 2日～
9	秀吉のまちづくり	ヨーロッパ関係出土品	2月17日～
9	大坂三郷	琉球使節と大坂	6月16日～
9	まちの生活	道頓堀開削400年	6月24日～ 8月24日
9	まちの生活	江戸時代のミニチュア・模造品	8月26日～11月16日
9	まちの生活	かるた	11月18日～ 2月8日
9	まちの生活	雛人形	2月10日～ 3月28日
9	まちの生活	大阪の船大工（川御座船図ほか）	3月30日～
9	信仰する	大阪府指定文化財　大太刀「大和守安定」	6月10日～ 8月24日
9	信仰する	府下・住吉大社の奉納刀（府指定　拵）	8月26日～
9	信仰する	生玉神社と寺町	9月30日～12月27日
9	町人の学問・大坂の芸術	石門心学	11月10日～
9	町人の学問・大坂の芸術	木村蒹葭堂	7月 7日～
8	通路側ケース	初公開の日本刀2口と鐔／館蔵の日本刀2口	8月 5日～10月19日
7	映像コーナー	8mmフィルム「春の京都・奈良」	6月 2日～10月 5日
7	映像コーナー	8mmフィルム「戦前のコウノトリ」	10月 7日～ 3月31日
7	写真パネルコーナー	昭和10年頃の大阪の都市景観	7月29日～11月30日
7	地域のなかの戦争	こどもと戦争	7月29日～ 3月31日
7	地域のなかの戦争	大阪大空襲と戦災焼失区域図	7月29日～ 9月28日
7	博覧会と大阪	第五回内国勧業博覧会	1月13日～ 3月31日
7	産業の展開	大阪の工業化を支えた町工場～滝野盛進堂～	9月16日～10月19日
7	美術工芸の諸相	芝山象嵌蒔絵箏	4月 1日～ 7月14日
7	美術工芸の諸相	【初公開】70年ぶりに見つかった鐔／【館蔵・寄託】昭和の刀剣	7月 4日～10月26日
7	美術工芸の諸相	正倉院展関連	10月28日～11月16日
7	美術工芸の諸相	新収蔵のキセルと矢立	11月18日～ 1月25日
7	美術工芸の諸相	前田亮一～大阪の街角を描く～	12月23日～ 3月31日
7	美術工芸の諸相	切嵌細工	1月27日～
7	引札と広告	大阪諸商の引札	8月 5日～11月30日
7	引札と広告	新年の引札	12月 2日～ 1月25日
7	引札と広告	節分丸かぶり寿司チラシ	1月27日～ 3月21日
7	引札と広告	大阪諸商の引札	昨年度～ 3月31日
7	都市の民間信仰	猿の郷土玩具	1月 6日～
7	鴻池家の生活用具	紙腔琴・電気蛍籠ほか	7月 8日～12月27日
7	鴻池家の生活用具	冬の調度品	1月 6日～ 3月31日
7	特設展示ケース	短刀「乱藤四郎」	昨年度～ 5月11日

特集展示

8階の特集展示室では、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。

●修復品・新収品お披露目展

会　　期：平成27年4月1日～6月1日
出 品 数：17点
担　　当：木土博成、伊藤純

博物館の所蔵する資料の中には、経年により表面が劣化したものや、汚れなどにより、必ずしも状態のよくないものが含まれている。そうした資料を修復し未来に伝えていくことは、博物館の重要な役割の一つである。また、大阪の歴史を考える上で重要な資料群を新たに収集し、後世に残していくことも、当館の重要な役割と言える。本企画では、修復の完了した資料を陳列し、博物館のもつ「資料の修復・保存」という役割について紹介するとともに、近年、新たに館蔵品となった資料についても展示した。

おもな出品資料は紙子羽織（本館蔵）、8ミリフィルム「潮岬・勝浦・那智山（正・続）」（本館蔵）、大塩平八郎関係資料（本館蔵）等である。

●中村順平と建築芸術教育

会　　期：平成27年6月3日～8月3日
出 品 数：28件
担　　当：酒井一光

大阪に生まれた建築家・中村順平（1887-1977）は、日本人として初めてパリのエコール・デ・ボザールに学び、フランス政府公認建築士となった。中村は帰国後、横浜高等工業学校でボザール流の芸術面を重視した建築教育を実践した。中村の教育方針は、日本近代の建築教育の中でも、建築の芸術性を重視したものとして高く評価されている。本展示では、中村が留学中に作成した建築設計課題の図面、横浜高等工業学校学校祭における建築科大行進に関連する中村の原画のほか、弟子たちが手がけた建築図画作品などを展示し、近代日本の中でも異彩を放った中村順平の建築教育の様子を紹介した。

おもな展示品は、南国の別荘、高等電気学校立面図、パリ市大学街日本館透視図（以上、中村順平画）、スケッチブック「玉虫厨子」（歌嵜昌太画）、軍馬の供養塚（蒲生久敏画）など計28件（いずれも本館蔵）。6月13日・21日、7月11日・19日に展示解説を実施した。

●看板の世界 ー館蔵コレクションからー

会　　期：平成27年8月5日～10月19日
出 品 数：25点
担　　当：伊藤廣之

看板は江戸時代、商工業の隆盛を背景に一般の商店でももちいられるようになり、元禄年間（1688年～1704年）以降には、大型のものや、金銀箔押や漆塗りによる豪華なものが作られるようになった。また明治時代以降は、経済の発展にともなって、素材・デザインともに看板の多様化が進んだ。当館の看板コレクションには、乾物・薬・建具・版木・眼鏡・たばこ・紙・酒などの多彩な看板類が50点ほどある。今回の展示では、そのなかから、近世・近代の代表的な看板25点を取り上げ、まちを彩った看板の歴史とデザインを時代・世相とともに紹介した。おもな展示品は、江戸時代の扇子屋看板、乾物屋看板、建具屋看板、鯛味噌看板、人参三蔵圓看板、池大雅の薬屋看板、明治時代の時計店看板などである。なお会期中、8月22日、9月27日、10月18日には、学芸員による展示解説を開催した。

●新発見！なにわの考古学2015

会　　期：平成27年10月21日～12月27日
出 品 数：約250点
共　　催：大阪市博物館協会大阪文化財研究所
担　　当：村元健一・松尾信裕・大阪文化財研究所
（田中清美・積山洋・田中裕子）

平成26年度に実施された大阪市内の発掘調査および刊行された発掘報告書の成果を中心に紹介した。展示構成は時代毎に「1）弥生・古墳時代の大阪」「2）古代・中世の大阪」「3）近世の大坂」「4）近・現代の大阪」の4コーナーを設け、さらにこれまで当館の付近で見つかっている縄文時代の遺跡の調査成果を紹介する「5）上町台地の縄文遺跡」を設けた。主な展示資料には加美遺跡の周溝墓・古墳出土の土器、長原遺跡出土の木製鞍、難波宮跡出土の荷札木簡、中之島蔵屋敷跡出土の宝珠文鬼瓦、森の宮遺跡出土の縄文土器などがある。

関連行事として講演会「大阪の歴史を掘る2015」を12月5日に開催し、展示解説を10月24日、11月7日・21日、12月12日・26日に実施した。

●大坂出土の貿易陶磁

会　　期：平成28年1月6日～2月15日
出 品 数：約160点
共　　催：大阪市博物館協会大阪文化財研究所
担　　当：松本百合子

近世の大坂は、世界的にも消費・生産・流通の大都市として発展を遂げ、経済的豊かさを背景に文化・芸術を生み出し、旺盛な消費活動が繰り広げられた。いわゆる鎖国制度のもとでも海外の品物が長崎を通じて輸入され、陶磁器を始めとする舶来品が人々の暮らしを彩った。

本展は大阪文化財研究所の発掘調査により大坂城下町跡や大坂城跡から見つかった豊臣期・徳川期の外国産陶磁器を網羅的に陳列した、始めての展覧会である。貿易陶磁と呼ばれるこれら陶磁器の産地は東アジア、東南アジア、ヨーロッパにおよび、国際都市大坂にふさわしい多種多様なものであった。展示構成は1.古代～中世の外国産陶磁器、2.近世の貿易陶磁、3.さまざまな容器、4.豪商の貿易陶磁、5.清朝磁器の模倣の5章とし、大坂における貿易陶磁の受容の様相について展観した。

関連行事として、展示解説を1月16日・30日、2月13日に行った。

●辛基秀（シン ギス）コレクション
朝鮮通信使と李朝の絵画

会　　期：平成28年2月17日～4月11日
出 品 数：16件
担　　当：大澤研一・岩佐伸一

江戸時代に朝鮮から日本を12回訪れた朝鮮通信使は当時の日朝間の善隣友好のシンボルとして、現在では教科書にも採り上げられるようになった。その研究と普及に尽力したのが故辛基秀氏（1931～2002）である。辛氏は研究のかたわら、まだ注目する人が少なかった通信使の資料そのものの収集をおこない、同時代の朝鮮の民画屏風を含め140件のコレクションをつくりあげた。当館は平成13年度よりそのコレクションの収蔵を開始し、平成26年度をもって全点が当館の館蔵品となった。本展示はその終了を記念し、コレクションのなかから大阪ゆかりのものを含め代表的な作品を選んで紹介した。

おもな出品資料は「朝鮮通信使小童図」（英一蝶筆）、「朝鮮通信使御楼船図屏風」、「葡萄図屏風」（崔奭煥筆）。いずれも本館蔵（辛基秀コレクション）であり、展示解説を2月27日、3月19日に、歴史ドキュメンタリーフィルム「江戸時代の朝鮮通信使」上映会を3月19日に実施した。

特別企画展

●道頓堀四百年記念　初世中村鴈治郎　ー上方歌舞伎の巨星ー

会　　期：平成27年7月1日～8月23日
開催日数：47日間
入場者数：45,833人
（期間中の常設展示入場者数）

出 品 数：約 100 点
リーフレット：A4 版、8 頁
担　　当：澤井浩一（大阪市博物館協会）、船越幹央、伊藤純

平成 27 年（2015）は、初世中村鴈治郎の没後 80 年に当たり、四代目鴈治郎丈の襲名披露も行われ、大阪にゆかりの深い「中村鴈治郎」という名跡が改めて注目された年であった。初世中村鴈治郎（1860 ～ 1935）は、幕末の大阪に生まれ、明治 11 年（1878）に父の後継として中村鴈治郎と改名し、上方歌舞伎を代表するスターとなった。風姿に優れ、和事の名手として絶大な人気を博し、「心中天網島」の紙屋治兵衛は最大の当たり役であった。

本展では、初世鴈治郎の芸と人を舞台衣裳や小道具、錦絵、写真、番付などを通して紹介し、彼自身が描いた絵画なども展示した。

◇おもな展示資料
- 化粧前　本館蔵（四代目坂田藤十郎氏寄贈）
- 生人形 初世中村鴈治郎　本館蔵（山田満子氏寄贈）
- 玩辞楼十二曲屏風　本館蔵（今中富之助氏寄贈）
- 紙治小道具　本館蔵（今中富之助氏寄贈）

◇関連イベント
- 記念講演会 森西真弓氏（『上方芸能』編集代表・大阪樟蔭女子大学教授）「初世鴈治郎とその時代」7 月 5 日
- 展示解説　8 月 2 日

特別展

●第 56 回特別展　大坂の陣 400 年　大坂 ー考古学が語る近世都市ー

会　　期：平成 27 年 4 月 18 日～6 月 8 日
開催日数：45 日間
入場者数：18,647 人
出 品 数：146 件
関連図書：『大坂　豊臣と徳川の時代』大阪歴史博物館・大阪文化財研究所編（高志書院）A5 判 208 頁
担　　当：豆谷浩之・松本百合子・大澤研一・松尾信裕、大阪文化財研究所（市川創・小田木富慈美・川村紀子・黒田慶一・清水和明・積山洋・藤田浩明・渡邉晴香）
主　　催：大阪歴史博物館・大阪市博物館協会大阪文化財研究所・読売新聞社

平成 27 年（2015）は、大坂にとって大きな節目となった大坂夏の陣から 400 年目に当たる。豊臣秀吉が建設し、大坂の陣を経て「天下の台所」として復興を遂げた近世都市・大坂のようすは、およそ 30 年にわたる発掘調査の積み重ねによって明らかになってきた。本展覧会では、近世大坂に関わる代表的な出土品を一堂に集めて陳列した。

展示の前半では、大坂城が建設される以前の時代からはじまり、豊臣秀吉による大坂城と城下町の建設、徳川期の都市再建と発展の歴史を、時代を追って展示し、展示の後半では、華麗な桃山陶磁や貿易陶磁、日々の暮らしに用いられた多様な品々、大坂での「モノづくり」に関わる出土品を通じて近世大坂の繁栄ぶりを紹介した。合わせて、館蔵品を中心に、古絵図や古文書、絵画作品など関連資料を陳列し、近世都市・大坂の歴史と文化・生活・産業のありさまを、よりビジュアルに紹介した。

◇関連イベント
- 第 26 回うえまちコンサート　大坂の陣 400 年記念企画「テレマン」の赤備え― 4 月 25 日
- 記念講演会 曽根勇二氏（横浜都市発展記念館職員）「秀吉の首都圏形成について－港湾都市・大坂の成立を中心に－」5 月 9 日
- シンポジウム「大坂発掘－見えてきた近世大坂のすがた－」5 月 23 日
- 展示解説　5 月 2 日・16 日・30 日、6 月 6 日

●第 57 回特別展　海峡を渡る布ー初公開 山本發次郎染織コレクション ふたつのキセキー

会　　期：平成 27 年 9 月 9 日～10 月 18 日
開館日数：35 日
入場者数：14,304 人
出 品 数：138 件
図　　録：A4 判、160 頁
担　　当：中野朋子、小川知子（大阪新美術館建設準備室）
主　　催：大阪歴史博物館・大阪新美術館建設準備室・産経新聞社
後　　援：在大阪インドネシア共和国総領館、サンケイスポーツ、夕刊フジ、サンケイリビング新聞社、関西テレビ放送、ラジオ大阪
協　　賛：ニューカラー写真印刷株式会社
協　　力：ダルマ・ブダヤ
展示企画委員：井関和代氏（大阪芸術大学教授）、内海涼子氏（大阪成蹊大学教授）

山本發次郎（1887 ～ 1951）が昭和戦前期に蒐集し、昭和 58 年（1983）に大阪市へ寄贈され大阪新美術館建設準備室が所蔵するインド・東南アジア染織コレクションから 138 件を初公開した。展覧会では同コレクションの蒐集と伝来の経緯を探るとともにインドネシア、インド、イスラム圏などに区分して展示するとともに、関連行事として下記を開催した。

◇関連イベント
- 記念講演会 河﨑晃一氏（甲南女子大学教授）「蒐集家・山本發次郎の素顔とコレクション」 9 月 13 日
- 記念講演会 井関和代氏（大阪芸術大学教授）ならびに内海涼子氏（大阪成蹊大学教授）「山本發次郎コレクションの染織―海峡を渡る布―」 9 月 26 日
- ダルマ・ブダヤによる民族音楽演奏会「ジャワガムランの夕べ－煌めく青銅の響き－」10 月 9 日
- 展示解説：9 月 20 日、10 月 12 日
- 見どころトーク：9 月 17 日、10 月 1 日

●第 58 回特別展
唐画もんー武禅に閩苑、若冲も

会　　期：平成 27 年 10 月 31 日～ 12 月 13 日

開館日数：38 日間
入場者数：28,013 人
出 品 数：154 件
図　　録：A4 判変形、226 頁
担　　当：岩佐伸一、酒井一光、豆谷浩之
主　　催：大阪歴史博物館、産経新聞社、関西テレビ放送
後　　援：サンケイスポーツ、夕刊フジ、サンケイリビング新聞社、ラジオ大阪
協　　賛：ニューカラー写真印刷株式会社
助　　成：公益財団法人花王芸術・科学財団

本展では、江戸時代の絵画のうち中国絵画の影響を受けたいわゆる「唐画」を得意とした大坂の絵師から墨江武禅（1734 ～ 1806）と林閬苑（生没年不詳、1770 ～ 80 年頃に活動）にスポットを当て、その作品を展示した。

武禅は大坂の浮世絵師月岡雪鼎や中国絵画に学び、初期には浮世美人図のちには中国風の山水図を多く手掛けた。閬苑は文人画家の福原五岳について絵を学び、華麗な花鳥画や荒々しく奇怪な表現の水墨画も描いた。

武禅や閬苑の約 100 点の作品に加えて、伊藤若冲や円山応挙、森狙仙や耳鳥斎など同時代の京都や大坂で活動した絵師の作品も展示し、武禅や閬苑がどのような絵画環境の中で創作をしていたのかを提示した。

◇おもな展示資料
- 三美人図　月岡雪鼎筆　個人蔵
- 美人戯児図扇面　墨江武禅筆　太田記念美術館蔵
- 群仙図屏風　福原五岳筆　個人蔵
- 白孔雀図　林閬苑筆　本館蔵
- 乗興舟　伊藤若冲画　千葉市美術館蔵

◇関連イベント
- 講演会　岡本栄氏（伊賀市長）「善きものと出会う －古美術を楽しむ－」11 月 15 日
- 展示解説　11 月 6 日・14 日、12 月 11 日

資料収集

平成 27 年度は、寄贈によって新たに 394 件 4,988 点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの収集資料にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●平成 27 年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	4,724	0	0	4,724
美術	8	0	0	8
考古	0	0	0	0
民俗	1	0	0	1
芸能	1	0	0	1
建築	254	0	0	254
	4,988	0	0	4,988

●館蔵品総点数（平成 28 年 3 月 31 日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	77,879	9,143	86	87,108
美術	5,545	1,648	3	7,196
考古	7,025	4,765	6,178	17,968
民俗	4,540	2,485	2	7,027
芸能	10,421	1,029	3	11,453
建築	5,738	0	27	5,765
	111,148	19,070	6,299	136,517

燻蒸

博物館の新規受入資料に対する各種害虫及びカビの駆除のために、燻蒸庫燻蒸を 6 月、9 月、2 月の計 3 回実施した。また、6 月から 7 月に収蔵資料の保全のために、収蔵庫内にて生物（歩行・飛翔虫）の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

新収館蔵資料紹介

●豊原国周　愛宕館芝浦八景　明治 24 年 5 月 新富座大判錦絵三枚続　明治 24 年
行俊良雄氏寄贈

「下の巻」の「八大龍王」（龍宮城の場）を描く。「跋難陀龍王の五代目尾上菊五郎」、「龍宮の乙姫の四代目中村福助と難陀龍王の初代市川左団次」、「娑伽羅龍王の四代目中村芝翫」の 3 枚。版元は小森宗次郎、彫刻は「彫銀」で、4 月の出版。

新収館蔵資料一覧

寄贈

●歴史

◇池永敏子氏・池永節子氏寄贈資料

軍人像	1 体
池永家借家経営関係資料	1,265 点
池永家名誉職関係資料	120 点
池永家家政関係資料	2,040 点
池永家家計関係資料	116 点
池永家金融関係資料	254 点
池永吉郎関係資料	182 点

◇大池由美氏・村川宏美氏寄贈資料

16 ミリフィルム	31 巻

◇岡本敦司氏寄贈資料

註文帳	1 冊
当座預金通帳	1 冊
当座勘定通帳	1 冊
物品判取帳	1 冊
銀行勘定帳	1 冊
陸軍被服廠大阪支廠売込帳	1 冊
慶弔贈物控	1 冊
金銭受渡簿	1 冊
東区連合区会議員収支計算簿	1 冊
松壽会積立金通帳	1 冊
千疋会積立金通帳	1 冊
尊名簿	1 冊
支払帳	1 冊
支払帳	1 冊
南大江幼稚園創設趣意書	1 冊
昭友会会員名簿	1 通
名誉職員録	1 冊
南大江教育会報告書　第二十八回	1 冊
帝国在郷軍人会南大江分会役員名簿	1 冊
昭友会会員名簿	1 冊
〔株配当等書上帳〕	1 冊
昭和十三年度第二次防空訓練	1 通
骨屋町市場平面図	1 舗
布令字辨	1 冊
浪華文会編纂　小学習字本　第七	1 冊
改正諸証文定則鑑	1 冊
諸案簿	1 冊
記	1 冊
堺県管下和泉国第一大区壱小区　錦之町西三丁人員帳	1 冊
〔除痘館案内〕	1 通
〔岡本忠一宛証書〕	1 通
〔岡本忠一宛証書〕	1 通
〔岡本忠一宛証書〕	1 通
〔岡本忠一宛証書〕	1 通
〔岡本忠一宛証書〕	1 通
〔岡本忠一宛証書〕	1 通
〔半田ふじ宛証書〕	1 通
〔半田ふじ宛証書〕	1 通
証	1 通
証	1 通
〔岡本たみ宛証書〕	1 通
〔岡本たみ宛証書〕	1 通
種痘済証書	1 通
天然痘済証書	1 通
証	1 通
種痘済証書	1 通
家賃金請取通	1 通
年中手本	1 冊
窮理贈答の文　下	1 冊
小学読本　二	1 冊
第二習字本	1 冊
〔第二習字本〕	1 冊
第三習字本	1 冊
小学初等第五級習字本　完	1 冊
小説　東都紫巻之二	1 冊
書牘　日用文　一	1 冊
習字手本　七體伊呂波　全	1 冊
改訂　国文詳解（巻一前編、女学校用）	1 冊
京都市電案内図	1 舗
〔京都市電、市バス案内〕	3 舗
〔皇室写真〕	1 枚
（案文集）	34 冊
岡本忠一徽章・バックル類	1 点
表札「岡本忠一」	22 点
高級御写真　皇国の礎	1 枚
大阪電気軌道株式会社　新築記念品	1 点
名刺　「山田覺一」	2 枚
下駄	足

◇木津宗人氏寄贈資料

木津家伝来平瀬家文書	95 点

◇佐々木高子氏寄贈資料

本阿弥三郎兵衛光重書状（原田藤左衛門あて）	1 通
本阿弥陀光怡書状（本田伝兵衛あて）	1 通
刃品姿貌眕見記	1 冊
明治十七年三月一日華族会館内任有軒において刀剣会（出品目録）	1 通
第三期刀剣鑑定会（出品状）浪花振古社	1 通
第五期刀剣鑑定会（出品状）　浪花振古社	1 通
鑑査状（臨時全国宝物取調、志津短刀、佐々木政行あて）	1 通
臨時全国宝物出張検査につき書類綴	1 綴

◇高谷正之氏寄贈資料

写真	253 点
ネガアルバム	1 冊

◇西健一郎氏寄贈資料

貴工場視察ノ件依頼

（陸軍造兵廠大阪工廠→合名会社尾上商店鉄工部）　1通
葉書（宮吉丸事宮本豊吉→尾上鉄工所・尾上常次）　2通
葉書（山本幸彌→尾上常治）　1通
合資会社尾上鋳工所（鉄工所）宛空封筒　16通
払出通知票　3通
電話名義変更承認通知書（姫路郵便局→尾上鋳工所ほか）　1通
請求書（木村商事→尾上鉄工所）　1通
納品伝票（中辻地銅商店→尾上鋳工所）　1通
封書（藤岡梅太郎→尾上常次方苦木）　1通
出荷案内書（守谷商会大阪支店→尾上鉄工所）　1通
封書（角田善助→尾上鉄工所）　1通
出荷御案内（長谷川商店→尾上鉄工所）　1通
全国鋳物業者大会御案内（日刊工業新聞社→尾上鋳工所）　1通
照会の件、回答
（大阪市役所産業部商工相談掛→尾上鉄工所）　1通
封書（福島浅助→尾上常次）　1通
封書（吉岡吾一→尾上常治）　1通
封書（伊藤駒吉→尾上鉄工所）　1通
封書（吉村商店→尾上鋳工所）　1通
封書（中辻地銅商店→尾上鋳工所）　1通
封書（東洋帆布→尾上鋳工所）　1通
封書（福島鉄工所→尾上常治）　1通
封書（長谷川商店→尾上鉄工所）　1通
封書（吉村商店→尾上鋳工所）　1通
封書（高畠寿三郎→尾上常治）　1通
封書（柏原義行→尾上常治）　1通
封書（千賀英→大久保治）　1通
封書（美保英吉→尾上常次）　1通
封書（矢田部宗太郎→尾上常治）　1通
封書（井上慶二→尾上鋳工所内毛利彦作）　1通
封書（福島浅助→尾上常治）　1通
封書（東野崎支店→尾上鋳造所）　1通
封書（坂出町長ほか→尾上鋳工所）　1通

◇藤井文子氏寄贈資料
写真　34点
九条東小学校沿革略史　1部
西成郡泉尾新田村誌　1綴

◇藤枝宏治氏寄贈資料
河内国茨田郡諸口村文書　92点
南与菊屋町宗旨御改之帳　寛文元年8月23日　1冊

◇山田伊佐子氏寄贈資料
妊産婦手帳　1冊
出生児記録冊子　1冊
第一回国勢調査員任命証　1通
第一回国勢調査記念章之章　1通
第二回国勢調査員任命証　1通
失業統計調査員任命証　1通
国勢調査並失業調査感謝状　1通
区長代理者当選通知　1通
関東大震災義捐感謝状　1通
関東大震災義捐業務感謝状　1通
関東大震災調査感謝状　1通
天王寺村解散式感謝状　1通

◇行俊良雄氏寄贈資料
往来券　1通
引札　15枚
日光山全図　1枚
大石内蔵助言上書　1枚
伝単　3枚
マリヤナ時報　1枚
衣料切符　5枚
配給券入　1点
指定衣料品購入通帳　1通
横浜正金銀行金属札　1点
自転車副鑑札　1通
納税準備預金通帳　1通
防火勧奨通知　2枚
郵便年金実話　1冊
赤ちゃん優先配給手帳　1冊
大阪乳幼児保護協会要覧　1冊
京富商店工事概要　1冊
大阪魚会社営業案内　2部
印刷御用命のしをり　1部
大阪町名考　1冊

●美術
◇木津宗人氏寄贈資料
初代木津宗詮所用甲冑　1領

◇田邊早智子氏寄贈資料
菅公尊像　1幅
玉水焼赤楽茶碗　楽翁作　1口
蒔絵大革胴　1口

◇中嶌ちせ子氏寄贈資料
牡丹詰文花鳥人物図丼　1口
流水に桜図花瓶　1口

◇森田まみ子氏寄贈資料
花鳥人物図花瓶　1口
帯文脚付香炉　1口

●民俗
◇浅野毅氏寄贈資料
丸行灯商看板　1点

●芸能
◇行俊良雄氏寄贈資料
豊原国周　愛宕館芝浦八景　明治24年5月
新富座 大判錦絵三枚続　1組

●建築
◇生田泰子氏寄贈資料
旧奥野清順邸長屋門　鯱瓦　1点
旧奥野清順邸長屋門　留蓋瓦（獅子）　1点
旧奥野清順邸長屋門　鬼瓦（宝珠文）　1点
旧奥野清順邸長屋門　鬼瓦（「艸」文）　1点
旧奥野清順邸長屋門　軒丸瓦　1点
旧奥野清順邸長屋門　隅巴瓦　2点
旧奥野清順邸長屋門　軒桟瓦　1点
旧奥野清順邸長屋門　飾瓦　4点

◇植松清志氏寄贈資料
満州ニ建ツ停車場案　大正十四年秋　本間乙彦作　1枚
漂流船漁榮丸遭難記念碑　昭和二年十二月
建築士本間乙彦案　1枚
（松竹アドビル）Ad. BuiL 透視図　西南部　1枚
（松竹アドビル）Ad. BuiL 透視図　西北部　1枚
（松竹アドビル）Ad. BuiL 透視図（青図）　1部
松竹経営 Ad. BuiL 設計図（青図）　1部
Ad. BuiL 設計図　架構詳細（青図）　1部
松竹アドビル　入口装飾立面スケッチ　1枚
植物文スケッチ　本間乙彦画　1枚
小川香料（大阪小川ビル）／
ある楽器店　スケッチ　本間乙彦画　1枚
6階建搭屋付ビルディング立面図　本間乙彦画　1枚
和田邸透視図　本間乙彦画　1枚
ある住宅の透視図／
住宅・堀川の町並み スケッチ　本間乙彦画　1枚
新杵御菓子舗透視図　本間乙彦画　1枚

東洋亭透視図／ある様式建築のスケッチ　本間乙彦画　1枚
第２階客室透視図　本間乙彦画　1枚
鉄塔のある郊外風景　本間乙彦画　1枚
三宝院内松月亭スケッチ　本間乙彦画　1枚
湖畔の郊外住宅地 スケッチ　本間乙彦画　1枚
六麓荘からの眺望 スケッチ　本間乙彦画　1枚
靭下ノ橋より旧大阪府庁を望む／
大野室生川　スケッチ　本間乙彦画　1枚
市街風景／高師海岸 スケッチ　本間乙彦画　1枚
田園風景／六甲山芦屋にて スケッチ　本間乙彦画　1枚
信州民家スケッチ　本間乙彦画　1枚
本棟造民家スケッチ　本間乙彦画　1枚
平谷の民家スケッチ　本間乙彦画　1枚
大澤村の民家スケッチ　本間乙彦画　1枚
大澤村の民家スケッチ２　本間乙彦画　1枚
渓谷の民家スケッチ　本間乙彦画　1枚
天見流谷のコナシ小屋スケッチ　本間乙彦画　1枚
古私谷木樵小屋スケッチ　本間乙彦画　1枚
積雪の民家スケッチ　本間乙彦画　1枚
入母屋造妻入民家妻面スケッチ　本間乙彦画　1枚
松本スエ家住宅土間スケッチ　本間乙彦画　1枚
曲がり家スケッチ　本間乙彦画　1枚
吉村家住宅吊部屋スケッチ　本間乙彦画　1枚
裸石神社スケッチ　本間乙彦画　1枚
大和桜井の民家スケッチ　本間乙彦画　1枚
十津川村小森・西田宅台所スケッチ　本間乙彦画　1枚
大塔村中峯スケッチ　本間乙彦画　1枚
人知・白屋周辺の集落スケッチ　本間乙彦画　1枚
聴泉閣よりスケッチ　本間乙彦画　1枚
大峰山脈スケッチ　本間乙彦画　1枚
渓谷スケッチ　本間乙彦画　1枚
渓谷にて人物／山岳スケッチ　本間乙彦画　1枚
飛び石スケッチ　本間乙彦画　1枚
湯ノ山より御在所岳スケッチ　本間乙彦画　1枚
山頂の社スケッチ　本間乙彦画　1枚

◇岡田聿之氏寄贈資料
岡田孝男作品アルバム　第一巻　1冊
岡田孝男作品アルバム　第二巻　1冊
岡田孝男作品アルバム　第三巻　1冊
岡田孝男作品アルバム　第四巻　1冊
岡田孝男作品アルバム　第五巻　1冊
岡田孝男作品アルバム　第七巻　1冊
岡田孝男作品アルバム　第八巻　1冊
岡田孝男作品アルバム　第九巻　1冊
岡田孝男作品アルバム　第十巻　1冊
岡田孝男作品アルバム　別巻　1冊
岡田孝男作品アルバム　設計図　星野邸　1冊
岡田孝男作品アルバム　野田邸　1冊
岡田孝男作品アルバム　（無題１）　1冊
岡田孝男作品アルバム　（無題２）　1冊
岡田孝男作品アルバム　前田・夙川立野　1冊
岡田孝男作品アルバム　安□邸　1冊
設計書類　プラン帖　1冊
茶室実測（二）　1冊
長尾邸設計図　1部
野田氏邸平面図（青図）　1部
「伸びゆく家」の展覧会目録　1部
甲子園住宅地 明るい家 No.20 特売中　阪神電車土地課　1部
甲子園住宅地 明るい家サンニーハウス　阪神電車土地課　1部
山ヲ背ニシタ理想的住宅　木田邦太郎　1部
日英米専売特許 重軽油使用 家庭温室暖房用ストーブ
阪急百貨店園芸部　1部
長尾光章氏邸模型　1点
野田氏邸模型　1点
住宅模型　1点
住宅スタディ模型　1点

Welta　岡田孝男所用　1台
トランシット　岡田孝男所用　1台
レベル　岡田孝男所用　1台
岡田孝男『近畿茶室行脚』晃文社、昭和十八年　1冊
岡田孝男『近畿茶室行脚』 著者校正　1部
西洋建築史（自作本）　1部
岡田孝男『茶室の平面』社団方針大阪府建築士会、
昭和 39 年　1冊
ノート『名席巡り　岡田』　1冊
ノート『名席巡り企画　岡田　地域別』　1冊
ノート（茶室関係著作等リスト）　1冊
ノート『三尾の紅葉寺』　1冊
ノート『茶室の話　建築協会』　1冊
ノート（茶室関係原稿レイアウト）　1冊
ノート『備忘録　高層ビル』　1冊
ノート『草稿』　1冊
ノート『法隆寺 中宮寺 法輪寺 法起寺』　1冊
ノート『借家法 土地収用法 経済原論／岡田』　1冊
ノート『京都俳句　松尾会記』　1冊
ノート『学校の講義』　1冊
ノート『千茶道文化学院　建築概論／岡田』　1冊
ノート
『短大住居学ノートⅠ　建築史・住居史・茶室／岡田』　1冊
ノート『近畿大学Ⅰ　住宅概論・敷地・平面計画・
各室の設備／岡田』　1冊
ノート『近畿大学Ⅰ　共同住宅・独身寮・ホテル・旅館／
岡田』　1冊
ノート『講義控　56 年』　1冊
ノート（室生寺等見学旅行）　1冊
岡田孝男講義関係資料（共同住宅・ホテル）　1部
岡田孝男講義関係資料「資料茶道史　資料ノート茶道史」　1部
岡田孝男講義関係資料「茶室／千茶道特講資料」　1部
岡田孝男講義関係資料「茶道史旧稿」　1部
岡田孝男講義関係資料「特講茶道史／六〇年清記茶道史」　1部
岡田孝男講義関係資料「特論茶道史資料」　1部
岡田孝男講義関係資料「建築史特講茶道具」　1部
岡田孝男講義関係資料「三千家」　1部
岡田孝男講義関係資料
「建築史特講茶室／六〇年清記建築史特講茶室」　1部
岡田孝男講義関係資料
「茶道史前期／建築史特講／茶室旧稿」　1部
岡田孝男講義関係資料「大学住居学／茶室建築」　1部
岡田孝男講義関係資料「千茶道文化学院」　1部
岡田孝男講義関係資料「近大講義ノート／岡田先生返送分」　1部
岡田孝男講義関係資料「住居学資料／帝大ノート」　1部
岡田孝男講義関係資料「住居学」　1部
岡田孝男講義関係資料「住居学／後期／住居史」　1部
岡田孝男講義関係資料「近大プリント原版」　1部
岡田孝男講義関係資料「近大計画各論プリント」　1部
岡田孝男講義関係資料「茶室資料」（プリント）　1部
岡田孝男講義関係資料「特講資料／茶室プリント」　1部
岡田孝男講義関係資料「日本建築史資料」　1部
岡田孝男講義関係資料「日本建築史　前期」　1部
岡田孝男講義関係資料「日本建築史（二）後期　近世」　1部
岡田孝男講義関係資料「日本建築史資料　南禅寺山門」　1部
岡田孝男講義関係資料「建築史Ⅱ」　1部
岡田孝男講義関係資料
「三千家配置図／茶室アイソメ」（プリント）　1部
ノート　近代建築史　1部
西洋建築史　図版　1式
日本建築史　図版　1式
「第十章　表現派」原稿　1部
近代建築図版カード　1部
日本建築史　図版スクラップブック　1冊
近代建築図版　1部
はがき（保→岡田孝男、1959.6.17.）　1枚
書簡（村野藤吾→岡田孝男）　1通

坪田邸茶室設計図書　1式
伊藤徳次郎氏邸茶室設計図書　1部
黄梅庵・伸庵設計図書　1部
水屋棚青図　2枚

◇木村弓子氏寄贈資料
中村順平写真帖（断簡）故網戸武夫蔵　1冊

◇大和ハウス工業株式会社寄贈資料
新開地ガスビル　エレベータ扉（装飾部分）　1点
新開地ガスビル　ドア把手　1点

◇中川果林氏寄贈資料
プランタン心斎橋　椅子　1脚
プランタン心斎橋　卓子　1台
プランタン心斎橋　衝立　1台

◇松本陽一氏寄贈資料
東京駅 RTO 待合室壁面彫刻下絵（全図）　中村順平画　1枚
ボザール設計課題「体育館」桁行断面図　中村順平画　1枚
ボザール設計課題「体育館」梁行断面図　中村順平画　1枚
ボザール設計課題「体育館」側面図　中村順平画　1枚
岩崎家食堂展開図　中村順平画　1枚
横浜高等工業学校 第四回建築科大行進
「光ハ東方ヨリ」ポスター原画　中村順平画　1枚
横浜高等工業学校 第四回建築科大行進「光ハ東方ヨリ」
山車「建築の玉座」デザイン　中村順平画　1枚
横浜高等工業学校 第五回建築科大行進
「大アジア主義」ポスター　1枚
横浜高等工業学校 第五回建築科大行進
「大アジア主義」山車のデザイン　中村順平画　1枚
横浜高等工業学校 第五回建築科大行進
「大アジア主義」衣裳デザイン　中村順平画　1枚
横浜高等工業学校 第六回建築科大行進
「文藝復興」ポスター　1枚
横浜高等工業学校 第六回建築科大行進
「文藝復興」山車のデザイン　中村順平画　1枚
横浜高等工業学校 第六回建築科大行進
「文藝復興」衣裳デザイン　中村順平画　2枚
横浜高等工業学校 第七回建築科大行進
「日本文化ノ独立」ポスター　1枚
横浜高等工業学校 第七回建築科大行進
「日本文化ノ独立」ポスターゲラ　1枚
横浜高等工業学校 第七回建築科大行進
「日本文化ノ独立」山車のデザイン　中村順平画　1枚
横浜高等工業学校 第七回建築科大行進
「日本文化ノ独立」山車・衣裳デザイン　中村順平画　1枚
横浜高等工業学校 第八回建築科大行進
「藝術之歓喜」大道具・衣裳デザイン　中村順平画　1枚
横浜高等工業学校 第八回建築科大行進
「藝術之歓喜」衣裳デザイン　中村順平画　3枚
東京駅貴賓室前室透視図下絵　中村順平画　1枚
東京駅貴賓室前室付近透視図スケッチ　中村順平画　1枚
新宮殿　広間透視図下絵　中村順平画　2枚
新宮殿　玉座の間透視図下絵　中村順平画　1枚
伊勢神宮透視図下絵　1枚
ホテル設計図エスキス　中村順平画　1枚
風神雷神図壁画エスキス　中村順平画　1枚
前橋八幡宮配景図　青図　2枚
前橋八幡宮平面図　縮尺1／50　青図（青写真）　1枚
前橋八幡宮弊殿及ビ本殿詳細図
縮尺1／20　青図（青写真）　1枚
前橋八幡宮拝殿詳細図　縮尺1／20　青図（青写真）　1枚
建築図画「崇福寺第一峰門」　遠源范画　1枚
建築図画「大仏殿」下図　大泉博一郎画　1枚
長崎造船所北米航路汽船船内装飾設計図　造船番号900
図面番号1　壹等ロウンジ　床平面・家具配置
縮尺1：20　青図　3枚
長崎造船所北米航路汽船船内装飾設計図　造船番号900
図面番号3　壹等ロウンジ　舷側壁面図　縮尺1：20　青図　3枚
鶴舞公園設計図　縮尺千二百分之壹　第二原図（裏焼）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　衛生工事第弐階平面図
縮尺1：100　図面番号　設4　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　衛生工事中弐階平面図
縮尺1：100　図面番号　設5　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図
暖房及空気温室度調整装置第参階平面図　縮尺1：100
図面番号　設16　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図
暖房及空気温室度調整装置第五階平面図　縮尺1：100
図面番号　設18　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　電気工事配線系統図
図面番号　設19　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　電気工事地階平面
縮尺1：100　図面番号　設20　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　電気工第壹階平面
縮尺1：100　図面番号　設21　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　電気工第貳階平面
縮尺1：100　図面番号　設22　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　電気工第中階平面
縮尺1：100　図面番号　設23　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　電気工第参階平面
縮尺1：100　図面番号　設24　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　電気工第四階平面
縮尺1：100　図面番号　設25　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所　各部外壁厚変更図
縮尺1：20　昭和11.7.30.　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　建具表索引
昭和10年11月13日　図面番号　附録11　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　建具表鉄製建具姿図
縮尺1：50　昭和10年11月13日　図面番号　附録12
青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　建具表木製建具姿図
縮尺1：50　昭和10年11月13日　図面番号　附録13
青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　壹階御神前周詳細
縮尺1：20　昭和11年8月6日　図面番号附録14
青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図
地階記念物保存室及祖霊殿下部詳細図　縮尺1：20
昭和11年9月23日　図面番号　付録14　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　各階梁床版鉄筋表
基礎梁及杭割付　縮尺1：100　昭和11年5月5日変更
図面番号31　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　鉄筋コンクリート構造詳細
階段詳細其一　縮尺1：20　昭和10年11月22日変更
図面番号55　青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所新築設計図　鉄骨構造　第壹階第貳階梁伏
縮尺1：100　昭和10年11月22日変更　図面番号57
青図（青写真）　1枚
金光教難波教会所改築工事　構7
貳階柱断面及中弐階床梁伏図　縮尺1：50
十一・六・十四　青図（青写真）　1枚
中村順平 ノート“Gothique”　1冊
中村順平 ノート“Arnaud”　1冊
中村順平 ノート「東洋建築①」　1冊
中村順平 ノート「西洋建築③」　1冊
中村順平　名刺版型　1枚
建築図画　Palais Farnese　構図スケッチ　中村順平画　2枚
原稿　“La Composition”　2600.11.29.　1部
建築学関係ノート断簡　1式
建築学　ガリ版刷　断簡　1部
中村順平『兵営日誌』複製本　網戸武夫作　1冊
中村順平『航西日誌』複製本　網戸武夫作　1冊

中村順平『中学日誌』複製本　網戸武夫作	2冊
花鳥スケッチ　松本陽一画	10枚
松本陽一　スケッチブック	2冊
松本陽一　スケッチ綴帖	1冊
中村順平作品アルバム断簡	1冊
中村順平講義写真スクラップブック	1枚

館蔵品の修復

平成27年度に修復した資料は次の表の通りである（5件38点）。

名称	数量	修復概要
16ミリフィルム	8巻	テレシネによるコンテンツ保存（冒頭、および一部全巻）
16ミリフィルム	4巻	テレシネによるコンテンツ保存（コンテンツのデジタル化は文化庁補助事業）
9.5ミリフィルム	9巻	テレシネによるコンテンツ保存（冒頭、および一部全巻）
9.5ミリフィルム	2巻	テレシネによるコンテンツ保存（コンテンツのデジタル化は文化庁補助事業）
中村順平資料	15点	亀裂・欠落部分の補修、裏打ちおよび額装

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し

データ整備

●マイクロフィルム撮影

本年度は下記の館蔵資料について撮影を行った。

(1) マイクロフィルム撮影および電子化

- 堀田コレクション5点290コマ、竹森章相撲番付コレクション85点160コマ

すでに撮影済みの永松繁樹氏旧蔵文書のうち、319コマについても電子化を行った。

(2) 写真撮影

- 22点（美術工芸資料8点、芸能資料6点、建築資料6点、歴史資料2点）

(3) デジタルカメラ撮影

- 堀田コレクション「博物学資料集」1点　330カット

●図書の受入（平成28年3月31日現在）

今年は新たに3,388件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈2,868件、特別観覧献本76件、移管37件、購入351件、自主刊行物の登録56件であった。蔵書は当館2階の学習情報センター「なにわ歴史塾」において閲覧サービスを行っている。

特別観覧

平成27年度は撮影11件（193点）、実測2件（2点）、閲覧14件（207点）、印画1件（6点）、掲載・掲出185件（1,725点）、放映44件（115点）、デジタルオンデマンド17件（53点）の計274件（2,301点）の特別観覧があった。

※（　）内は資料点数。重複含む。

館蔵資料の貸出し

平成27年度に他機関に貸出した資料数は下に掲げた表の通りである（18件126点）。

申請者	数	展覧会名称	貸出期間
大阪市立科学館	1	常設展示「古代の科学技術」	平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日
長浜市曳山博物館	4	企画展「歌舞伎で震える怪談噺」	平成27年 7月 1日～平成27年 9月 7日
兵庫県立歴史博物館、新潟県立歴史博物館	13	企画展「北前船」	平成27年 7月 1日～平成27年11月20日
大阪市立住まいのミュージアム、摂南大学	4	企画展「淀川舟遊―川をめぐる文化史―」	平成27年 7月10日～平成27年 9月10日
高月観音の里歴史民俗資料館	6	企画展「雨森芳洲と朝鮮通信使～未来を照らす交流の遺産～」	平成27年 8月17日～11月 6日
北海道博物館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館	1	特別展「夷酋列像－蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界－」	平成27年 8月18日～平成28年 5月31日
千葉市美術館	52	特別展「唐画もん－武禅に閲苑、若冲も」	平成27年 9月 1日～平成27年10月25日
文化庁国立近現代建築資料館	2	企画展「ル・コルビジェと日本－国立西洋美術館と3人の弟子を中心に」	平成27年 9月 4日～平成27年11月30日
和泉市久保惣記念美術館	2	特別展「笑いのかたち－絵が笑う絵で笑う」	平成27年 9月16日～平成27年12月16日
釜山博物館	8	特別展「朝鮮通信使と釜山」	平成27年 9月21日～平成27年12月24日
歴史館いずみさの	2	特別展「大坂の陣と泉州・紀北～樫井合戦への道～」	平成27年10月 1日～平成27年12月11日
国立科学博物館	7	企画展「渋川春海と江戸時代の天文学者たち」	平成27年10月 1日～平成28年 3月31日
大阪市立科学館	2	企画展「光とあかり」	平成27年10月 1日～平成28年 1月15日
釜山博物館	6	特別展「朝鮮時代通信使と釜山」	平成27年10月12日～平成27年12月24日
神戸市立博物館、長崎歴史文化博物館、毎日新聞社	6	特別展「我が名は鶴亭」	平成28年 1月 1日～平成28年 6月30日
九州国立博物館	1	企画展「祈りのかたち　八幡」	平成28年 1月10日～平成28年 3月20日
岡山県立美術館	5	特別展「没後100年　宮川香山－虫明焼と明治の陶芸」	平成28年 3月 1日～平成28年 5月31日
たばこと塩の博物館	4	特別展「根付と提げ物」	平成28年 3月19日～平成28年 7月17日

教育普及事業

シンポジウム等

◇シンポジウム「大阪の縄文時代をさぐる」（公益財団法人大阪市博物館協会・大阪市立大学共催）

10月31日　164名　報告①「森の宮遺跡と上町台地の縄文集落」松尾信裕、報告②「森の宮の人々と狩猟活動」安部みき子（大阪市立大学）、報告③「縄文人のエコロジーとエコノミー」瀬口眞司（公益財団法人滋賀県文化財保護協会）、ディスカッション　パネラー：大野薫（大阪府立狭山池博物館）、趙哲斉（大阪文化財研究所）、石田惣（大阪市立自然史博物館）、司会　岸本直文（大阪市立大学）

◇シンポジウム「大坂の成立・展開と本願寺・信長・秀吉－「石山」呼称問題から都市論・権力論へ－」（大阪歴史学会主催）

3月27日　270名　課題提起「「石山」呼称問題の経緯と検討課題」吉井克信（大阪狭山市立郷土資料館）、報告①「「石山」呼称のはじまり－豊臣大坂城との関わりで」大澤研一、「近世「石山」呼称の展開－軍記・唱導・浄瑠璃にみる」塩谷菊美（神奈川県立高校）、報告②「真宗史における「石山」呼称の受容－近世～近代」岡村喜史（本願寺史料研究所）、「権力論・都市論から見る「大坂」－「石山合戦」史観の問題性」仁木宏（大阪市立大学）

講座・見学会

●なにわ歴博講座

◇第1期「知られざるおおさかの歴史と文化」

5月1日「“石山”は本願寺にあらずして、豊臣大坂城。」大澤研一　120名

5月8日「大阪の川魚をめぐる食と流通－ウナギ・フナ・コイ－」伊藤廣之　64名

5月15日「本間乙彦の建築作品とスケッチについて」酒井一光　63名

5月22日「明治前期大阪における家屋敷売買と町による規制」飯田直樹　56名

5月29日「信濃善光寺と大阪和光寺－善光寺御開帳写真紀行－」伊藤純　82名

6月5日「市川箱登羅日記を読む－明治後期・歌舞伎俳優の日常－」船越幹央　52名

◇第2期「中世・近世史研究の現場から」

9月11日「難波宮が『まぼろしの宮』になるまで」豆谷浩之　125名

9月18日「大坂の町屋構造の変遷」松尾信裕　104名

9月25日「両替商銭屋佐兵衛の分家・別家」八木滋　97名

10月2日「琉球使節が大坂にやってきた」木土博成　97名

◇第3期「考古学　東奔西走」

11月13日「銅鐸研究　入門編」杉本厚典　91名

11月20日「渡来人のふるさとを探る」寺井誠　104名

11月27日「前期難波宮の内裏の大きさを探る」李陽浩　92名

12月4日「隋唐洛陽城の誕生とその歴史－古代副都制の起源を求めて②－」村元健一　73名

12月11日「大坂出土の清朝陶磁」松本百合子　45名

●金曜歴史講座（公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所と共催）

◇シーズン1

10月23日「邪馬台国時代の加美遺跡」田中清美（大阪文化財研究所）　139名

10月30日「発掘調査からみえてきた徳川期大坂城本丸」櫻田小百合（大阪文化財研究所）　139名

11月6日「謎の百済郡とその開発～生野東遺跡の調査成果をもとに～」小田木富慈美（大阪文化財研究所）　163名

◇シーズン2

3月11日「発掘資料からみた信長・秀吉・秀頼時代の焼物」森毅（大阪市経済戦略局）　104名

3月18日「考古学と地質学の連携のあり方について－古地理図の世界へご招待－」趙哲済（大阪文化財研究所）　185名

●館長講演会

6月27日　「難波宮を造った建築資材－材木を中心に－」栄原永遠男　122名

●大阪府教職員互助組合歴史セミナー（大阪府教職員互助組合と共催）

12月13日「天下無双の城　豊臣大坂城」松尾信裕　167名

●同志社女子大学講座「西洋文化と大坂」（同志社女子大学と共催）

2月20日　210名

講演1「近代日本とキリスト教」小﨑眞氏（同志社女子大学）

講演2「近世大坂とヨーロッパのつながり」と博物館案内ツアー（44名）豆谷浩之

●古文書講座「古文書が語る大坂の日常・非日常」

①1月30日「古文書入門／大名貸証文を読む」八木滋　64名

②2月6日「商家の婚礼史料を読む」八木滋　58名

③2月13日「商家の婚礼史料を読む」八木滋　56名

④2月20日「朝鮮通信使と「国役金」」木土博成　50名

⑤2月27日「淀藩士が見た朝鮮通信使と琉球使節」木土博成　56名

●考古学入門講座「なにわ考古学散歩　大坂の陣と復興の道のりを歩く」

①5月10日「大坂城とその周辺」豆谷浩之　30名

②5月17日「大坂蔵屋敷」松本百合子　31名

③5月24日「大阪城下町」松尾信裕　30名

④5月31日「豊臣期大坂城惣構の南辺を歩く」積山洋（大阪文化財研究所）　28名

●館長講座「館長と学ぼう　新しい大阪の歴史」

第4回9月16日「前期難波宮にみられる建築的ネットワーク」李陽浩　78名

第5回9月30日「民生委員創設 秘ストリー」飯田直樹　43名

第6回10月7日「大阪の豪商・鴻池善右衛門、名物裂をあつめる」中野朋子　88名

第7回2月24日「近代淀川漁業の姿を探る」伊藤廣

之　89名
第8回3月2日「山根徳太郎以前の難波宮」伊藤純　133名
第9回3月9日「朝鮮と琉球」木土博成　169名

●連続講座「渡来人いずこより－弥生・古墳時代の日朝交流－」

①2月22日「輝きとの出会い－金属器生産と渡来人－」寺井誠　251名
②2月29日「楽浪郡の興亡と対外交渉の変化」寺井誠　239名
③3月7日「渡来文化に見える新羅」寺井誠　238名
④3月14日「渡来文化に見える百済」寺井誠　230名

●見学会

◇クルーズ講座「歴史資料を片手に川めぐり」
7月19日　伊藤純、木土博成　51名
◇建築史探偵団2015「商都と古都のデザイン」
①11月14日「大阪（昭和町～四天王寺）を歩く」酒井一光、船越幹央　30名
②11月25日「京都（京都御所周辺）を歩く」酒井一光、船越幹央　31名

●なにわ歴博寄席2015

「なにわの暮らし事情」（落語ファクトリーと共催）
11月22日　163名
落語：「青菜」桂三風、「天災」笑福亭銀瓶、「ハンカチ」桂三風
講座：「暮らしの知恵袋」木土博成

●雅楽鑑賞会

2月27日　228名　博雅会

特別展・特集展示・講演会・展示解説など

◇特別展「大坂－考古学が語る近世都市－」
- 4月25日「第26回うえまちコンサート」110名
- 5月9日記念講演会「秀吉の首都圏形成について－港湾都市・大坂の成立を中心に－」曽根勇二氏（横浜都市発展記念館職員）150名
- 5月23日シンポジウム「大坂発掘－見えてきた近世大坂のすがた－」パネラー：大澤研一・松本百合子・清水和明・小田木富慈美、司会：松尾信裕・豆谷浩之　170名
- 展示解説　5月2日　33名、5月16日　35名、5月30日　50名、6月6日　70名

◇特別展「海峡を渡る布－初公開 山本發次郎染織コレクション ふたつのキセキ－」
- 9月13日記念講演会「蒐集家・山本發次郎の素顔とコレクション」河崎晃一氏（甲南女子大学教授）65名
- 9月26日記念講演会「山本發次郎コレクションの染織－海峡を渡る布－」井関和代氏（大阪芸術大学教授）、内海涼子氏（大阪成蹊大学教授）130名
- 10月9日民族音楽演奏会「ジャワガムランの夕べ－煌めく青銅の響き－」演奏：ダルマ・ブダヤ　192名
- 展示解説　9月20日　42名、10月12日　65名
- 見どころトーク　9月17日　24名、10月1日　16名

◇特別展「唐画もん－武禅に閬苑、若冲も－」
- 11月15日講演会「善きものと出会う－古美術を楽しむ－」岡本栄氏（伊賀市長・元関西テレビ放送アナウンサー）81名
- 展示解説　11月6日　25名、11月14日　50名、12月11日　40名

◇特別企画展「道頓堀四百年記念　初世中村鴈治郎－上方歌舞伎の巨星－」
- 7月5日記念講演会「初世鴈治郎とその時代」森西真弓氏（『上方芸能』編集代表・大阪樟蔭女子大学教授）60名
- 展示解説　8月2日　20名
- 道頓堀開削400年講座　①7月25日　八木滋　158名、②8月8日　八木滋　192名

◇特集展示「修復品・新収品お披露目展」
- 展示解説　4月4日　19名、4月18日　24名、5月3日　17名

◇特集展示「中村順平と建築芸術教育」
- 展示解説　6月13日　10名、6月21日　10名、7月11日　13名、7月19日　17名

◇特集展示「看板の世界 －館蔵コレクションから－」
- 展示解説　8月22日　5名、9月27日　29名、10月18日　12名

◇特集展示「新発見！なにわの考古学2015」
- 12月5日講演会「大阪の歴史を掘る2015」杉本厚典、森岡秀人氏（奈良県立橿原考古学研究所共同研究員・桜井市纒向学研究センター共同研究員）134名
- 展示解説　10月24日　6名、11月7日　9名、11月21日　12名、12月12日　8名、12月26日　26名

◇特集展示「大坂出土の貿易陶磁」
- 展示解説　1月16日　15名、1月30日　24名、2月13日　18名

◇特集展示「辛基秀コレクション　朝鮮通信使と李朝の絵画」
- 2月6日韓日交流トークイベント「こころをつなぐ朝鮮通信使～交流の遺産を未来へ～」仲尾　宏氏（京都造形芸術大学客員教授）、片山真理子氏（元高麗美術館研究員）、大澤研一　280名
- 3月19日歴史ドキュメンタリーフィルム「江戸時代の朝鮮通信使」上映会　165名
- 展示解説　2月27日　18名、3月19日　50名

●展示解説

- 特別展・特別企画展に伴う展示解説・みどころトーク計12回、参加者合計470名
- 特集展示に伴う展示解説　計20回、参加者合計342名
- 常設展示に伴う展示解説　計166回、参加者合計1,415名

“なにわ歴博”わくわく子ども教室事業

①和同開珎の拓本でしおりをつくろう　毎月第2土曜日　全12回、計324名
②手作りおもちゃで遊ぼう　毎月第1・3土曜日（1月は第3のみ）全23回、計1,666名
③綿くり・糸つむぎ体験　7月25日　計85名
④近代建築ダンボールクラフト体験　7月31日、8月9

日　全4回、計36名
⑤考古学者になってみよう　10月17・31日、11月14・21日　全4回、計17名
⑥凧づくりと凧あげ　1月9日　20名

難波宮遺跡探訪

当館の地下に保存されている難波宮の遺跡について、学芸員・ボランティアによるガイドツアーを実施している（1日6回、定員各回40名）。平成27年度は合計16,316人の参加があった。また、開館日の12時30分～13時の間に古墳時代の復元倉庫を公開しており、合計9,261人が見学した。

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館2階の無料空間内にある。映像ソフト約100件の閲覧、「昔の大阪」写真ライブラリー約7,000枚の閲覧、開架図書約6,000冊の閲覧、常駐する学芸員による学習相談に応じた。検索端末を利用した館蔵図書・館内展示情報検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーも用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットの作成、「なにわ歴史塾ブログ」・掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室コーナーの随時更新など、利用推進を図った。また今年度も司書を中心にして、特集展示開催などに合わせて、「館蔵品掲載図書」(4/1～5/11)、「VIVA！お風呂」(5/13～6/29)、「夏休み子ども特集」(7/1～8/31)、「金ＧＯＬＤ」(9/2～10/12)、「大阪検定2015」(10/14～11/30)、「冬の特集 大阪の食と商店街」(12/2～3/28)の6回の特集を企画し、関連書籍を配架した。27年度の入室者数は33,723名、書庫出納件数は181件、複写利用件数は808件であった。

学校連携事業

学校教育との連携をはかるために、学校教員を対象とする研修会への学芸員を派遣するとともに、学校における進路学習のための職場体験学習を受け入れた。また、大学からの博物館実習の受け入れをおこなった。

●学校職員の研修の受入
◇初任者社会体験研修　7月22・27日
大阪府立港南造形高校教員　3名
◇大阪市教員研修（主催：大阪市教育センター）
対象：大阪市立学校園教職員　30名
8月5日　「道頓堀400年」「初世中村鴈治郎」
◇新規採用社会体験研修　8月12・13日
大阪市小・中学校教員　3名

●学校団体（小中学校及び高等学校）への教育支援および職業体験の受入
7月3日　大阪市立天満中学校20名　職業講話・見学
7月10日　大阪府立高津高等学校　5名　職場訪問
9月16日　関西大学高等部　4名　卒業論文への助言
10月23日　大阪府立今宮高校　25名　学芸員の講話
11月12日・13日　大阪市立東中学校　2名　職業体験
11月19日・20日　大阪市立咲くやこの花中学校2名　職業体験
12月4日　大阪市立天満中学校　職業講話（派遣）
2月4日・5日　大阪市立真住中学校　1名　職業体験

●考古学体験教室
大阪文化財研究所と連携し「考古学体験教室」を開催した。博物館を会場とし、「瓦の拓本」「土器の接合」「AR難波宮を使った遺跡見学」を行った。実施に当たっては小学校高学年を対象とし、希望する学校の調整には大阪市小学校社会科研究会の協力を得た。今年度は、平成27年11月11日に、市内2校、145名の児童たちを受け入れた。

●博物館実習の受け入れ
博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は、11大学43名を受け入れた。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受益者負担の考え方から、実習に要する費用として1人あたり5,000円を徴収した。
◇8月17日～21日　大阪大学18名、京都橘大学1名、甲南女子大学1名、同志社大学2名、大阪市立大学1名
◇8月31日～9月4日　大阪市立大学8名、関西学院大学2名、佛教大学2名、奈良大学4名、立命館大学1名、大谷大学1名、帝塚山学院大学1名、大阪大学1名
見学実習は、奈良女子大学、龍谷大学ほかから計256名を受け入れた。

ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとしてボランティアを導入している。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。平成27年度のボランティア登録者数は236名。活動日は休館日を除く毎日で、日数は307日間、延べ活動人数は5,271人であった。

●各グループの活動

◇遺跡探訪・歴史を掘る班
（活動者101名 延べ活動人数2,282名）
前期難波宮跡の管理棟遺構や倉庫跡などのガイドツアーの解説・誘導を行った。また、常設展示8階歴史を掘るコーナーで再現された遺跡を使って学習プログラムの案内や説明を行った。5月4日と10月31日の「iPadで楽しむ難波宮遺跡探訪」の実施に当たっては延べ6名が、5月6日と11月3日の「石組水路の一般公開」に当たっては延べ14名が協力した。
◇スタンプラリー・ハンズオン班
（活動者135名 延べ活動人数2,989名）
10・9・7階の展示場において、大阪の歴史に関するクイズを解きながら見学する子ども向けスタンプラリーを実施している。また常設展示場内で体験型事業（ハンズオン）を来館者向けに実施しており、その運営および説明と来館者への補助を行った。ハンズオンは以下の6種類である。
10階：大宮人になってみよう！（奈良時代の官人の服

を着る体験）／大極殿の土台をつくってみよう！（大極殿基壇を組み立てる立体パズル）

9階：両替商になってみよう！（江戸時代の両替商を体験）／投扇興に挑戦！（的に扇を投げて点数を競う遊び）

7階：大阪名所双六をやってみよう！（明治時代の双六で遊ぶ）／きものを着てみよう！（昔の着物を着る体験）

以上の6種類の他、2・3月には9階で「浪花百景 貝合わせで遊ぼう！」を実施した。

●研修

5月2日「AR難波宮、石組水路研修」6名
10月25日「AR難波宮、石組水路研修」1名
11月28日「平城宮跡見学研修」28名
12月1日「平城宮跡見学研修」58名
1月20日ハンズオン貝合わせ研修20名
3月8日「常設展示場10・9階研修」102名

●ボランティア懇談会

ボランティアと博物館側の意志疎通を円滑にし、よりよいボランティア活動を推進していく目的で、3月5日・8日に懇談会を開催した。また、新規に活動を始めたボランティアを対象とした懇談会を9月26日・29日に実施した。

●平成28年度ボランティアの次年度継続

平成27年度に活動したボランティアの任期は、平成28年3月末までの1年間であった。次年度以降の継続意思を確認したところ、活動辞退者が21名となり、215名を登録者とした。

連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携

博物館群等の連携事業

大阪市の博物館・美術館等の施設が連携し、大阪の魅力をアピールするための事業を実施した。前年に引き続き（公財）大阪市博物館協会事業企画課による推進体制をとり、当館もそれに参画した。

●ミュージアム連続講座「海からの贈り物ー沈没船とさまざまな交流ー」

東洋陶磁美術館特別展「新発見の高麗青磁―韓国水中考古学成果展」開催にちなみ、連携する各施設と大阪市立大学の研究者が、多様な視点で紹介した。大阪市立総合生涯学習センターにおいて11月10日から3週連続1日2講座（計6講座）開催し、当館からは11月17日に大澤研一が「朝鮮通信使たちの水上パレード―大坂で出迎えた豪華絢爛の川御座船―」と題して講演した。

●広報誌「Osaka Museums」

大阪市博物館協会が、所管する4つの博物館・美術館と大阪文化財研究所の情報を掲載したタブロイド版情報誌1・2号を発行し、当館も情報を掲載した。

●教員のための博物館の日2015

大阪市博物館協会等が主催する、教員向けに大阪市内の博物館・美術館を紹介する事業に参加した。第2回目を迎える本年は8月5日に開催し、88名の教員・教育関係者の参加があった。公園の内訳は小学校60校、中学校10校、高校5校、支援学校10校、大学1校、博物館2館であった。

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館協会の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入しており、今年度は大阪市立大学、大阪大学、大阪府立教育センター附属高等学校、大阪市立咲くやこの花高等学校が会員となり、年間利用者は順に274名、258名、89名、7名であった。

●大阪市立大学との連携

大阪市博物館協会が法人として大阪市立大学と締結している包括連携協定事業に参加した。本協定に基づき、市大開講の博物館関連講義へ下記学芸員を派遣した。

- 博物館経営論：大澤研一
- 博物館資料保存論：豆谷浩之、寺井誠
- 博物館展示論：伊藤純、大澤研一、豆谷浩之、酒井一光、八木滋

包括連携協定企画の下記事業に学芸員を派遣した。

- 10月31日シンポジウム「大阪の縄文時代をさぐる」:「森の宮遺跡と上町台地の縄文集落」松尾信裕
- 11月16日博学連携講座「幕末の摂海防備と台場跡」:「大坂の台場・陣屋」八木滋
- 2月20日シンポジウム「難波宮と大化改新Ⅲ」:「大化改新と難波宮－大化改新研究の現段階－」栄原永遠男、「前期難波宮への中国宮城の影響について」村元健一、「大化改新と宮殿建築の画期」李陽浩

館独自の連携事業としては下記を実施した。

- 研究プロジェクトへの派遣：大阪市立大学平成27年度戦略的研究「豊臣大坂城山里曲輪の石垣復元」松尾信裕、大澤研一

●同志社女子大学との連携（共催事業）

2月20日　同志社女子大学講座「西洋文化と大坂」:講座「近世大坂とヨーロッパのつながり」（豆谷浩之）と博物館案内ツアー

その他の連携事業

●大念佛寺との共催展示

大阪市内の文化財所有者と連携し文化財の公開・活用を促進する事業の一環として、本年も大念佛寺宝物館（平野区）と共催の「平野と大念佛寺展」を開催した。5月1日～7日、入場者4,587名。

●上町台地歴史講座

上町台地を活動の場とするNPO法人まち・すまいづくりと連携・共催し、特別展「大坂―近世都市の考古学―」協賛オープニングコンサートとして第26回うえまちコンサート「大坂の陣400年記念企画 「テレマン」の赤備え―浅井咲乃＆テレマン・アンサンブルによる「なにわの響き」～ほとばしる弦の火花が、本陣突き崩し相成るか！～」を4月25日に開催し、特別展解説として豆谷浩之を派遣した。参加者110名。

●地域連携事業

博物館周辺に立地する商業・宿泊施設、美術館、教育施設等と定期的に会合 をもち、大阪城公園・難波宮跡を中心とした地域活性化のために「大阪城公園周辺マップ」を作成した。

共催事業

●第 31 回歴史学入門講座（第 31 回歴史学入門講座実行委員会主催）

7 月 12 日「「歴史学の方法」を考えるために－現代・史料･史学史－」木村茂光氏（帝京大学文学部教授）144 名

●第 9 回難波宮フェスタ！ 2015（NPO 法人 OSAKA ゆめネット主催）

7 月 26 日　2,484 名

- 難波宮講演会「難波津から渡辺津へ」松尾信裕 102 名
- NHK 地下石組み遺構特別公開　30 名

「大阪歴史博物館友の会」との連携

大阪歴史博物館友の会は、平成 26 年度から幹事会を中心とした自主運営に移行した。当館は､役員（副会長、顧問）への就任、幹事会での助言、見学会への講師派遣（21 頁参照）などの連携を行い、会の運営をサポートしている。自主運営 2 年目となり、見学会をはじめとする催しにも工夫がこらされ、多くの参加者を集めている。なお、平成 28 年 1 月時点の会員数は 259 名（家族会員含む）である。

平成 27 年度　普及関連事業の回数（日数）と参加人数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	シンポジウム等	2	434
	講座・見学会その他	46	4,683
	特別展・特別企画展・特集展示・常設展示、講演会・展示解説	211	4,114
	なにわ歴博　わくわく子ども教室事業	42	2,148
	石組み水路公開・AR 難波宮	4	292
	難波宮遺跡探訪・復元倉庫の公開	2,149	25,577
学校連携事業	学校職員の研修の受入	3	36
	教育支援および職業体験	8	59
	考古学体験教室	1	145
	博物館実習・見学実習の受け入れ	10	299
地域・その他連携事業	共催事業	6	7,623
ボランティア関連事業	研修	6	215
合計		2,488	45,625

広報宣伝活動

館の活動を広く PR し、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展関係が 354 件、特集展示関係が 174 件、館全体に関する内容・その他が 131 件であった。

●印刷物の発行

昨年度に引き続き、年間展示予定表（1 回）・英語版年間展示予定表（1 回）・なにわ歴博カレンダー（54 ～ 57 号）を発行した。

その他の広報宣伝事業

●関西文化の日

関西文化の日 2015 に参加し、11 月 14･15 日の 2 日間、常設展示の観覧料を無料とした。計 3,335 名の観覧者があった。

●ホームページの公開

ホームページでは特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開しており、本年度は当館のホームページに 367,262 件（累計 4,393,270 件）、1 日平均 1,006 件のアクセスがあった（前年度比で約 85％）。また、1 日の最大接続件数は 2,316 件（10 月 5 日）であった。このほかに携帯電話を対象とするモバイルサイト（上記ホームページアクセス件数に含む）や、外部サービスを利用した「なにわ歴史塾ブログ」を継続運用している。

● Twitter による情報発信

本年も館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。平成 28 年 3 月末現在でのフォロワー数は 1,622 で､年間ツィート数は 811 であった。

刊行物

平成 27 年度は下記 5 件を刊行した。

●『大阪歴史博物館研究紀要　第 14 号』
A4 判 197 頁、平成 28 年 3 月

●『大阪歴史博物館館蔵資料集 12 旧大阪市都市工学情報センター所蔵資料「都市と水辺」』
A4 判 49 頁、平成 28 年 3 月

●『共同研究成果報告書 10』
A4 判 96 頁、平成 28 年 3 月

●『大坂　豊臣と徳川の時代　ー近世都市の考古学ー』
編著：大阪歴史博物館・大阪文化財研究所
発行：高志書院、A 5 判 208 頁、平成 27 年 4 月

●『戦国アバンギャルドとその昇華　変わり兜×刀装具』
編著：大阪歴史博物館
発行：株式会社青幻舎、A4 判 160 頁、平成 27 年 9 月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々の歴史に対す

る関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。とくに当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は共同研究においては3テーマ、基礎研究においては2テーマを実施した。また平成26年度に行われた共同研究「大坂の両替商銭屋佐兵衛家の研究と展示」の成果を『共同研究成果報告書』10に収録した。

各研究テーマは以下の通りである。

●共同研究

◇堀田コレクションの研究
担当：加藤俊吾、船越幹央
外部研究員：佐久間大輔（大阪市立自然史博物館）、嘉数次人（大阪市立科学館）、小野昌弘（大阪市立科学館）

◇難波宮の官衙遺構についての基礎的研究
担当：栄原永遠男、李陽浩、村元健一、寺井誠
外部研究員：積山洋（大阪文化財研究所）

◇鴻池家旧蔵名物裂についての研究
担当：中野朋子
外部研究員：佐藤留実（五島美術館）

●基礎研究

◇難波で発せられた改新詔にみえる駅制駅鈴をめぐって
担当：伊藤純

◇大坂に関わる西国大名史料の基礎調査
担当：木土博成

◇大阪と江戸・東京との都市比較史研究
担当：豆谷浩之

文部科学省科学研究費補助金による研究

◇基盤研究（B）研究代表者：飯田直樹
「部落」対策事業として始まった大阪府方面委員制度の全国化とその限界についての研究

◇基盤研究（C）研究代表者：岩佐伸一
絵画制作者としての公家の基礎的研究
－江戸時代中後期を中心に－

◇基盤研究（C）研究代表者：寺井誠
日本列島における出現期の甑の故地に関する基礎的研究

◇基盤研究（C）研究代表者：八木滋
17世紀大坂の都市開発についての研究

◇挑戦的萌芽研究　研究代表者：飯田直樹
大阪における個別町・町内会機能の変容に関する研究
：新たな近代都市論の構築をめざす

◇挑戦的萌芽研究　研究代表者：杉本厚典
近世近代大阪の産業マップ作成

◇挑戦的萌芽研究　研究代表者：中野朋子
「天覧」でみる美術工芸振興についての研究
－天皇行幸は地方に何をもたらしたのか－

個人の調査研究活動

●栄原永遠男

• 専攻分野
（1）正倉院文書（2）東大寺史（3）古代難波研究

• 著述
「回顧と展望　日本古代一、九（資財帳・献物帳、史料集、広開土王碑・集安高句麗碑、料紙、翻刻・史料研究）」『史学雑誌』124編5号、pp.37-38、66-68、平成27年5月
「歌木簡から探るいにしえ人のこころ」徳島県立埋蔵文化財センター編『観音寺木簡にみるいにしえ人のこころ－論語木簡と難波津の歌木簡から探る－』、pp.1-7、平成27年11月
「書評と紹介　皆川完一著『正倉院文書と古代中世史料の研究』」『日本歴史』813、pp.101-103、平成28年2月
「大化改新と難波宮－大化改新研究の現段階－」『シンポジウム難波宮と大化改新Ⅲ（資料集）』大阪市立大学、pp.1-6、平成28年2月
「東大寺の諸堂－丸山地区をめぐる政治的動向－」栄原永遠男・佐藤信・吉川真司編『東大寺の美術と考古（東大寺の新研究1）』、法蔵館、pp.491-523、平成28年3月
「難波宮の造営と木材の供給」『大阪歴史博物館紀要』第14号、pp.1-14、平成28年3月

• 口頭発表
「大仏開眼供養会の意味（東大寺の成立過程4）」東大寺指導者講習会、東大寺本坊、平成27年9月
「正倉院文書の世界」第17回読売新聞文化財等勉強会、読売新聞奈良支局、平成27年10月
「難波宮と古代大阪」シニア自然大学校シニアCITYカレッジ開講式記念講演、大阪教育大学天王寺キャンパス、平成27年10月
「誰がお経を写すのか？－発願から供養まで－」講座ここがおもしろい正倉院文書、ギャラリーよみうり、平成27年10月
「正倉院文書の構成－吉田孝氏の表の再検討－」正倉院文書研究会大会、大阪市立大学文化交流センター、平成27年10月
「正倉院文書からみた奈良時代の悔過」正倉院文書研究会大会、大阪市立大学文化交流センター、平成27年10月
「歌木簡から探るいにしえ人のこころ」徳島県立埋蔵文化財総合センター開所20周年記念シンポジウム、板野町文化の館、平成27年11月
「聖武天皇と紫香楽宮」奈良歴史地理の会関東支部、さいたま市文化センター、平成27年12月
「『東大寺要録』は何を引用したか」第16回東大寺要録研究会・第15回ザ・グレイトブッダ・シンポジウム、東大寺金鐘ホール、平成27年12月
「難波宮について考えよう」一般財団法人大阪労働協会平成27年度エル・おおさか歴史セミナー、エル大阪、平成28年1月
「大化改新と難波宮―大化改新研究の現段階―」シンポジウム『難波宮と大化改新Ⅲ』、大阪市立大学田中記念館、平成28年2月
「パネルディスカッション「大学や博物館が所蔵する活きた資料のデータ活用と新たな研究、総合資料学の未来」パネラー、国立歴史民俗博物館公開シンポジウ

ム、フラクシア東京ステーション、平成 28 年 2 月

●伊藤廣之

• 専攻分野

（1）日本民俗学　（2）環境民俗論、都市民俗論

（3）淀川における河川漁撈の研究、大阪の巨樹進行の研究

• 著述

「まちづくり運動とミュージアム―「平野 町ぐるみ博物館」に学ぶ」『博物館研究』Vol.51No.3、日本博物館協会、pp.28-31、平成 28 年 2 月

「淀川における川漁師の自然観」『大阪歴史博物館研究紀要』第 14 号、pp.21-32、平成 28 年 3 月

「宮本常一の環境論」『近畿民俗』第 182 号、近畿民俗学会、pp.39-46、平成 28 年 3 月

• 口頭発表

「大阪の川魚文化」近畿民俗学会 4 月例会、大阪歴史博物館、平成 27 年 4 月

「淀川の川漁師の世界観」近畿民俗学会 10 月例会、大阪歴史博物館、平成 27 年 10 月

「宮本常一の環境論」近畿民俗学会第 44 回年次研究大会、大阪歴史博物館、平成 28 年 2 月

●大澤研一

• 専攻分野

（1）日本中世史（2）都市史、宗教史

（3）都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交流について

• 著述

「近世都市大坂の成立と変容」『近世刊行大坂図集成』（脇田修監修　小野田一幸・上杉和央編集）創元社、pp.18-25、平成 27 年 7 月

「文献史料からみた豊臣大坂城の空間構造」「「豊臣期大坂城下町図」について」『秀吉と大坂　城と城下町』（大阪市立大学豊臣期大坂研究会編　大澤研一・仁木宏・松尾信裕監修）和泉書院、pp.53-76、pp.289-304、平成 27 年 9 月

「「石山」呼称の再検討－豊臣大坂城評価の観点から－」『ヒストリア』254 号、pp.28-40、平成 28 年 2 月

「大坂の陣後の復興と玉造地区の武家地転換をめぐって－高津屋史料の紹介をかねて－」『大阪歴史博物館研究紀要』第 14 号、pp.33-42、平成 28 年 3 月

「上町に向かう道　梅田街道 1 ～ 9、大和田街道 1 ～ 2」『うえまち』№.121 ～ 132（№.121 は p2、№.131 は p1、他号は全て p4 に掲載）、平成 27 年 4 月～ 28 年 3 月

• 口頭発表

「激突！大坂冬の陣・夏の陣」大阪学院大学生涯学習講座、大阪学院大学、平成 27 年 5 月

「～大坂の陣から 400 年を越えて～　大坂の陣とその復興」安威川公民館よくわかる歴史講座、安威川公民館、平成 27 年 5 月

「激動の 1615 年・大坂　－夏の陣 400 年を迎えて－」はびきの市民大学、平成 27 年 5 月

「真田幸村（信繁）」日本ボイラ協会大阪支部特別講演、新阪急ホテル、平成 27 年 6 月

「大坂の陣と真田丸」近畿会講演会、OMM ビル、平成 28 年 2 月

「大坂の陣と真田信繁（幸村）」尼崎信用金庫元気 A クラブ 平成 27 年度下期セミナー、大阪歴史博物館、平成 28 年 3 月

「絵図が語る真田丸」平成 27 年度エルおおさか文化芸術サロン、エルおおさか、平成 28 年 3 月

●松尾信裕

• 専攻分野

（1）日本考古学　（2）中近世都市遺跡の研究

（3）城下町をはじめとする中世から近世の都市の構造や形成過程の研究

• 著述

「豊臣大坂城と城下町」『大阪春秋』通巻№.158、pp28-31、新風書房、平成 27 年 4 月

「大阪のなりたち」pp.8-13、「豊臣大坂城下町の建設と拡大過程」pp.32-40、「町人地の拡大と構造」pp.81-87、「大坂出土の焼物」pp.94-99、『大坂　豊臣と徳川の時代－近世都市の考古学－』高志書院、平成 27 年 4 月

「大坂城玄関　巨大な堀」（新聞コメント）読売新聞朝刊、平成 27 年 4 月 16 日

「秀吉の石垣」大澤研一・仁木宏・松尾信裕監修、大阪市立大学豊臣期大坂研究会編『秀吉と大坂　城と城下町』上方文庫別巻シリーズ、pp.135-155、和泉書院、平成 27 年 9 月

• 口頭発表

「織田･豊臣の城と石垣」『大阪学院大学生涯学習講座』大阪学院大学エクステンションセンター、平成 27 年 4 月

「大坂城下町のなりたち」『平成 27 年度西成産業会総会記念講演』西成区民センター、平成 27 年 5 月

「大坂城下を発掘する」『羽曳野市市民生涯学習講座　はびきのふれ愛学のすすめ』陵南の森公民館、平成 27 年 7 月

「寺内町の構造　－御坊と町－」『和歌山歴史地理研究会』和歌山市本願寺鷺ノ森別院、平成 27 年 8 月

「大坂の陣と大坂城跡の発掘調査」『香芝市二上山博物館平成 27 年度第 3 回公開講演会』香芝市二上山博物館、平成 27 年 9 月

「大坂の陣を語る！大坂城下町の建設と変遷」『河内長野市民大学講座「くろまろ塾」歴史発見講座』河内長野市立市民交流センター、平成 27 年 9 月

「中近世都市史における豊臣期大坂城下町」『寝屋川市民大学講座』寝屋川市中央公民館、平成 27 年 10 月

「森の宮遺跡と上町台地の縄文集落」『シンポジウム大阪の縄文時代をさぐる－森の宮縄文人が語る環境とくらし－』大阪歴史博物館、平成 27 年 10 月

「戦乱と都市の変容」『平成 27 年度おおさかふみんネット中河内ブロック　』八尾市生涯学習センター、平成 27 年 11 月

「天下無双の城　豊臣大坂城」『大阪府教職員互助組合歴史セミナー』大阪歴史博物館、平成 27 年 12 月

「天下無双の城　豊臣大坂城」『信州大学同窓会』大阪

歴史博物館、平成 28 年 2 月
「上町から四天王寺まで－上町台地－」『考古学連続講座「地形から知る豊臣時代の都市構想　大坂の成り立ち・最新成果」』大阪市立総合生涯学習センター、平成 28 年 2 月

●豆谷浩之
• 専攻分野
（1）日本近世史、近世考古学　（2）近世都市史
（3）大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較
• 著述
「大坂にいた大名と発掘された武家屋敷」『大坂　豊臣と徳川の時代－近世都市の考古学－』高志書院、pp.48-55、平成 27 年 4 月
「豊臣時代の大坂城下町」（南秀雄氏（大阪文化財研究所）と共同執筆）『秀吉と大坂 城と城下町』和泉書院、pp.237-264、平成 27 年 9 月
「その後の難波京」『都城制研究（10）』奈良女子大学古代学学術研究センター、pp.85-97、平成 28 年 3 月

●松本百合子
• 専攻分野
（1）考古学　（2）仏教美術史、近世製油業の研究
（3）近世貿易陶磁の研究
• 著述
「さまざまな道具たち　化粧道具・明かりと油・文房具と定規」『大坂　豊臣と徳川の時代－近世都市の考古学－』高志書院、pp.121-132、平成 26 年 4 月

●酒井一光
• 専攻分野
（1）建築史　（2）歴史的建造物に関する研究
（3）近代建築、寺社建築
• 著述
「デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）旧館（旧神戸市立生糸検査所）」『タイルの本』89 号、タイルの本編集室、pp.34-37、平成 27 年 5 月
「デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）新館（旧国立生糸検査所）」『タイルの本』91 号、タイルの本編集室、pp.4-8、平成 27 年 7 月
「陶祖ヶ丘」『タイルの本』93 号、タイルの本編集室、pp.34-37、平成 27 年 9 月
「大阪は生きたタイル博物館」『生きた建築 大阪』140B、p123、平成 27 年 10 月
「鉄筋コンクリート造時代のタイルとテラコッタ」『近代建築 ものづくりの挑戦』竹中大工道具館、pp.96-97、平成 27 年 10 月
「南海ビルディング」『タイルの本』95 号、タイルの本編集室、pp.34-38、平成 27 年 11 月
「郷土建築座談会」『建築と社会』1126 号、日本建築協会、pp.46-47、平成 28 年 1 月
「山本清記念財団会館（旧山本家住宅）」『タイルの本』97 号、タイルの本編集室、pp.36-39、平成 28 年 1 月
「岸和田市立自泉会館」『タイルの本』99 号、タイルの本編集室、pp.36-39、平成 28 年 3 月

●杉本厚典
• 専攻分野
（1）日本考古学
（2）弥生土器・土師器の編年研究、GIS 考古学
• 著述
「『難波丸』と発掘調査成果の対比」『大坂　豊臣と徳川の時代－近世都市の考古学－』高志書院、pp.192-195、平成 27 年 4 月
「豊臣期から徳川期にかけての大坂の産業分布の変遷（予察）－発掘調査成果と『難波丸』、『難波丸綱目』との比較から－」『大阪歴史博物館研究紀要』第 14 号、pp.59-78、平成 28 年 3 月
• 口頭発表
「平成 26 年度　大阪市内の発掘調査」「大阪の歴史を掘る 2015」大阪歴史博物館、平成 27 年 12 月 5 日
• 文部科学省科学研究費補助金による研究
挑戦的萌芽研究　近世近代大阪の産業マップ作成
研究代表者：杉本厚典

●加藤俊吾
• 専攻分野
（1）考古学・考古学史　（2）金属器生産に関わる研究
（3）古代～近世における鋳鏡研究
• 著述
「5. 青銅鏡」『光とあかり（大阪市立科学館ミニブック）』大阪市立科学館、pp.16-18、平成 27 年 9 月
「下郷コレクションにおける東北地方貝塚の採集資料その 1 －里浜貝塚 1（骨角器）－」『大阪歴史博物館研究紀要』第 14 号、pp.79-98、平成 28 年 3 月

●李 陽浩
• 専攻分野
（1）建築史、都市史　（2）東アジア古代建築史
（3）建築技法からみた難波宮の復元的研究
• 著述
「前期難波宮の内裏規模をめぐる一考察」、『建築史学』65 号、pp.61-78、平成 27 年 9 月
• 口頭発表
「大化改新と宮殿建築の画期：「見せる」宮殿をめぐって」シンポジウム『難波宮と大化改新Ⅲ』、大阪市立大学田中記念館、平成 28 年 2 月 20 日
「大極殿地覆石に関する若干の検討：形式、系統、移築をめぐって」『都城制研究会』、大阪歴史博物館、2016 年 3 月 26 日

●飯田直樹
• 専攻分野
（1）歴史学　（2）日本近現代史
（3）都市大阪をフィールドにした地域社会構造史（近代都市史）と社会事業史
• 著述
「新刊紹介　田所顕平著『近代地域社会の教育願望と学校』」『市大日本史』18 号、pp.166-168、平成 27 年 5 月
「第四八回大会 参加記」『歴史評論』782、pp.107-108、

平成 27 年 6 月
「学芸員十六年目をむかえて」『有恒会報』第 204 号、pp.32-33、平成 27 年 9 月
「有关 1870 － 80 年代大阪房地产买卖与相关町的管制」『"历史视野下的城市空间与社会生活" 国际研讨会报告书』、pp.64-67、平成 27 年 11 月
「大坂の巻　大阪における町の近代化：議会的要素としての町会に着目して」News Letter『三都で GO!』2 号、p4、平成 28 年 2 月
「部落事務員について」『大阪歴史博物館研究紀要』第 14 号、pp.15-36、平成 28 年 3 月
「部落改善事業としての大阪府方面委員制度」、竹永三男・町田哲編『身分的周縁と部落問題の地域史的研究』部落問題研究所、pp. 257-296、平成 28 年 3 月

• 口頭発表
「大阪が発祥の方面委員（民生委員）」、大阪土佐堀クラブ 10 月例会、大阪 YMCA 会館、平成 27 年 10 月 20 日
「1880 ～ 90 年代の大阪における家屋敷売買と町による規制」、第 3 回上海大学・大阪市立大学国際共同シンポジウム、上海大学、平成 27 年 11 月 14 日
「大阪相撲と大阪相撲と兵庫県出身力士たち」、第 4 回宍粟学講座、市民センター波賀、平成 27 年 11 月 21 日
「大阪における町の近代化：議会的要素としての町会に着目して」、第 2 回三都研究会、東京大学出版会、平成 28 年 1 月 23 日

●伊藤 純

• 専功分野
（1）日本の歴史

• 著述
『第 6 回大阪の問題集―大阪検定公式出題・解説集』（分担執筆）、創元社、平成 27 年 5 月
「お祭り見てある記第 3 回　住吉大社御田植神事」『たかきや倶楽部通信』40、高津宮社務所、平成 27 年 9 月
「お祭り見てある記第 4 回　石津神社やっさいほっさい」『たかきや倶楽部通信』41、高津宮社務所、平成 27 年 12 月
「お祭り見てある記第 5 回　野里住吉神社一夜官女」『たかきや倶楽部通信』42、高津宮社務所、平成 28 年 3 月
「関西プチ遺産」『産経新聞』連載、平成 27 年 11 月～平成 28 年 3 月
11/ 7 神倉神社・ゴトビキ岩　11/14 谷瀬の吊橋　11/21 掩体壕　1/5 生駒ケーブル 12/2 五新鉄道の高架橋　12/19 大村神社の要石　1/9 高師浜駅　1/16 国道にアーケード　1/23 花窟神社　2/13 南浜墓地　2/20 関宿「一の鳥居」 3/19 蹶速塚、
「近世河内・大坂地域における善光寺の布教活動」『大阪歴史博物館研究紀要』第 14 号、pp.43-52、平成 28 年 3 月

• その他
〔大阪写真月間 2015　写真家 150 人の一坪展〕に「山村 千早」出品、大阪ニコンサロン、平成 27 年 5 月 28 日～ 6 月 3 日

●内藤直子

• 専攻分野
（1）美術史　（2）刀装具を中心とした日本の工芸研究

• 著述
稲田和彦監修『日本の美　日本刀』（分担執筆）、学研パブリッシング刊、平成 27 年 10 月

• 調査研究活動等
5 月　東京国立博物館所蔵刀剣類調査
7 月　堺市所蔵竹籃類調査
9 月　公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館所蔵工芸品調査
2 月　春日大社宝物刀剣類調査

●岩佐伸一

• 専攻分野
（1）美術史　（2）日本絵画史
（3）江戸時代後期の上方絵画

• 著述
「概説　墨江武禅と林閬苑」特別展『唐画もん』図録、pp.6-15、平成 27 年 9 月

• 口頭発表
「近世大坂の絵画と唐画もん」千葉市美術館、平成 27 年 9 月

• 調査活動
平成 27 年 4 月～平成 27 年 8 月　墨江武禅、林閬苑をはじめとする近世大阪画人作例調査（大阪市個人宅ほか）
平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月 江戸時代の公家が制作した絵画調査（京都市個人宅ほか）
平成 27 年 12 月　国文学研究資料館国文学文献資料調査（津市立図書館稲垣文庫）

●寺井 誠

• 専攻分野
（1）考古学
（2）弥生～飛鳥時代の日本列島と朝鮮半島の交流史
（3）日本列島出土の朝鮮半島系甑の故地解明

• 著述
「甑から見た渡来人の故地」『一般社団法人日本考古学協会第 81 回総会研究発表要旨』、pp.48-49、平成 27 年 5 月
「4 ～ 5 世紀の近畿地域を中心とした土器と渡来人集落」『日韓 4 ～ 5 世紀の土器・鉄器生産と集落』、pp.103-118、平成 28 年 1 月
「須恵器甑に見られる朝鮮半島的要素」『大阪歴史博物館研究紀要』第 14 号、pp.37-46、平成 28 年 3 月
『日本列島における出現期の甑の故地に関する基礎的研究』（科学研究費成果報告書）、ps.100、平成 28 年 3 月

• 口頭発表
「壱岐から見える東夷社会の発展」大阪府立弥生文化博物館　考古学セミナー、平成 28 年 2 月

• 調査活動
科学研究費補助金（基盤研究（C）25370902「日本列島における出現期の甑の故地に関する基礎的研究」）により岡山県、佐賀県、韓国などで資料調査を実施。

●**木土博成**

• 専攻分野

（1）日本近世史　（2）政治史　（3）琉球使節

• 著述

「書評　三宅正浩著『近世大名家の政治秩序』」『史林』99-2、pp.110-115、平成 28 年 3 月

「史料紹介「朝鮮人来朝一件」に見える琉球使節関係史料について」『大阪歴史博物館研究紀要』第 14 号、pp.81-89、平成 28 年 3 月

●**船越幹央**

• 専攻分野

（1）日本文化史

（2）近代都市における市民生活・文化・意識の研究

（3）大阪・京都を中心とした市民文化の研究

• 著述

『第 6 回大阪の門題集－大阪検定公式出題・解説集』（分担執筆）、創元社、平成 27 年 5 月

「西陣の芝居をめぐる人々－大正初期の京都における役者と観客－」『文化学年報』第 65 輯、pp.485-508、平成 28 年 3 月

「大正四年上演の歌舞伎「安井道頓」の番付、及び舞台写真について」『大阪歴史博物館研究紀要』第 14 号、pp.61-80、平成 28 年 3 月

●**中野朋子**

• 専攻分野

（1）美術史・服飾史

（2）上代裂の文様研究、近世服飾史、結髪史

（3）近世後期の京坂における服飾・風俗動向、特に結髪を中心とした女性のよそおい文化についての調査研究

• 著述

「山本發次郎染織コレクションを創ったひとびと」、特別展「海峡を渡る布―初公開 山本發次郎染織コレクション ふたつのキセキ―」図録、pp.14-18、平成 27 年 9 月

学芸員談話室「博物館の展示を“創ること”」、『博物館学年報』第 47 号、pp.113-118、平成 28 年 3 月

• 調査活動

科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究　15K12830「「天覧」でみる美術工芸振興についての研究－天皇行幸は地方に何をもたらしたのか－」）により、東京、茨城、群馬、愛知、三重、京都、岡山、香川などで調査を行った。

●**村元健一**

• 専攻分野

（1）歴史学　（2）古代の日中交渉

（3）難波宮と中国都城との比較研究

• 口頭発表

「隋唐洛陽と『複都制』」第 177 回宋代史談話会、平成 27 年 5 月

「隋・唐初の『複都制』－特に洛陽を中心に－」都城制研究会、平成 27 年 9 月

「前期難波宮への中国宮城の影響について」シンポジウム『難波宮と大化改新Ⅲ』、大阪市立大学田中記念館、平成 28 年 2 月

●**八木 滋**

• 専攻分野

（1）日本近世史　（2）流通社会史、都市史

（3）市場社会、両替商、都市開発

• 著述

「『銭源過去帳』と銭佐の分家・別家」（逸身喜一郎と共著）『共同研究成果報告書』10、pp.51-88、平成 28 年 3 月

「両替商銭屋佐兵衛の分家と別家」（逸身喜一郎と共著）『大阪歴史博物館研究紀要』第 14 号、pp.1-20、平成 28 年 3 月

• 調査活動

天王寺区田中家古文書調査　平成 27 年 11 月

平成 27 年度大阪歴史博物館入場者数

月	平成 27 年度　常設展					平成 27 年度　特別展					合計	その他入場
	有料		有料計	無料	常設展計	有料		有料計	無料	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生					
4	14,290	1,162	15,452	5,389	20,841	1,365	141	1,506	2,455	3,961	24,802	4,743
5	17,245	1,504	18,749	6,412	25,161	4,052	407	4,459	6,315	10,774	35,935	6,518
6	12,383	623	13,006	7,489	20,495	724	84	808	3,104	3,912	24,407	5,664
7	18,223	1,053	19,276	5,243	24,519	0	0	0	0	0	24,519	6,700
8	20,803	1,065	21,868	5,010	26,878	0	0	0	0	0	26,878	6,418
9	14,570	580	15,150	4,462	19,612	1,913	93	2,006	3,858	5,864	25,476	6,092
10	15,154	1,175	16,329	10,836	27,165	2,108	108	2,216	6,596	8,812	35,977	7,628
11	13,151	734	13,885	16,479	30,364	4,125	278	4,403	14,039	18,442	48,806	8,211
12	13,147	718	13,865	7,131	20,996	2,215	159	2,374	6,605	8,979	29,975	5,796
1	18,200	732	18,932	4,131	23,063	0	0	0	0	0	23,063	5,629
2	20,252	552	20,804	7,179	27,983	0	0	0	0	0	27,983	8,159
3	16,581	636	17,217	4,767	21,984	0	0	0	0	0	21,984	8,015
合計	193,999	10,534	204,533	84,528	289,061	16,502	1,270	17,772	42,972	60,744	349,805	79,573

※その他入場には、２・４階貸室利用者数、４階講堂での各種講演会・イベント参加者数、１階エントランスでの「わくわく子ども教室」参加者数などが含まれる。

委嘱・派遣・視察

委嘱

期間	内容	担当者
平成27年 3月20日～平成28年 3月19日	文化庁（文化審議会専門委員）	栄原永遠男
平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日	人間文化研究機構　国文学研究資料館　国文学文献資料調査員	岩佐　伸一
平成27年 4月13日～平成27年 6月30日	国立文化財機構　九州国立博物館　九州国立博物館文化財調査員	岩佐　伸一
平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日	松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課松江市史専門部会（松江城部会）委員	松尾　信裕
平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日	甲賀市教育委員会　甲賀市水口岡山城跡調査委員会委員	松尾　信裕
平成27年 7月 1日～平成28年 3月31日	人間文化研究機構　日本関連在外資料調査研究事業実績評価委員会委員	伊藤　廣之
平成27年 7月 3日	国立文化財機構　京都国立博物館　京都国立博物館列品等修理請負候補者選定	内藤　直子
平成27年 7月10日	国立文化財機構　京都国立博物館　京都国立博物館寄贈評価員	岩佐　伸一
平成27年 7月30～31日、11月20日	お守り刀展覧会運営委員会　第十回「お守り刀展覧会」審査会審査員	内藤　直子
平成27年 8月 1日～平成28年 3月31日	和歌山県文化財センター　和歌山県文化財センター調査委員会委員	松尾　信裕
平成27年 8月 1日～平成29年 3月31日	香芝市教育委員会　香芝市文化財保護審議会委員	伊藤　　純
平成27年11月 1日～平成29年 3月31日	吹田市教育委員会　吹田市立博物館協議会委員	伊藤　廣之
平成27年12月15日	国立文化財機構　京都国立博物館　京都国立博物館買取評価員	内藤　直子
平成27年12月16日	国立文化財機構　京都国立博物館　京都国立博物館寄贈評価員	内藤　直子
平成27年12月18日	文化庁　文化財の買取協議員	内藤　直子
平成28年 2月11日～平成30年 3月31日	大阪商工会議所　大阪検定委員会　委員	栄原永遠男

派遣依頼対応

日付	派遣先	担当者
4／ 8	大阪市人事室	船越　幹央
4／11	喜連村史の会	豆谷　浩之
4／25	大阪学院大学エクステンションセンター	松尾　信裕
4／26	大阪歴史博物館友の会	栄原永遠男
4／26	大阪歴史博物館友の会	船越　幹央
5／ 2	大阪学院大学エクステンションセンター	大澤　研一
5／ 8	摂津市安威公民館	大澤　研一
5／16	喜連村史の会	豆谷　浩之
5／17	はびきの市民大学	大澤　研一
5／18	大阪区民カレッジ	船越　幹央
5／20	一般社団法人西成産業会	松尾　信裕
5／22	NPO 法人大阪府高齢者大学校	飯田　直樹
5／24	はびきの市民大学	豆谷　浩之
5／30	てんのうじ観光ボランティアガイド協議会	大澤　研一
6／ 3	一般社団法人日本ボイラ協会大阪支部	大澤　研一
6／ 6	国土交通省近畿運輸局淀川河川事務所	大澤　研一
6／ 6	国土交通省近畿運輸局淀川河川事務所	八木　　滋
6／20	喜連村史の会	豆谷　浩之
6／27	大阪市立大学	八木　　滋
7／16	羽曳野市教育委員会	松尾　信裕
7／18	大阪市立大学教育後援会	栄原永遠男
7／18	喜連村史の会	豆谷　浩之
7／29	公益財団法人箕面市メイプル文化財団	船越　幹央
8／19	大阪商工会議所	船越　幹央
8／22	喜連村史の会	豆谷　浩之
9／ 5	大阪商業大学商業史博物館	伊藤　　純
9／ 6	香芝市教育委員会	松尾　信裕
9／17	大阪商工会議所	船越　幹央
9／18	（公財）河内長野市文化振興財団	松尾　信裕
9／19	喜連村史の会	豆谷　浩之
9／24	泉北教養講座	村元　健一
9／25	NPO 法人大阪府高齢者大学校	飯田　直樹
9／27	千葉市美術館	岩佐　伸一
10／17	喜連村史の会	豆谷　浩之
10／24	株式会社ビケンテクノ	松尾　信裕
10／24	大阪歴史博物館友の会	八木　　滋
10／31	都市整備局企画部住宅政策課	酒井　一光
11／ 1	都市整備局企画部住宅政策課	酒井　一光
11／11	八尾市教育委員会	松尾　信裕
11／19	大阪歴史博物館友の会	栄原永遠男
11／21	喜連村史の会	豆谷　浩之
11／23	大阪市立大学	八木　　滋
11／28	（公財）大阪府建築士会	酒井　一光
12／ 5	大阪歴史博物館友の会	大澤　研一
12／ 7	大阪観光ボランティアガイド協会	船越　幹央
12／14	大阪観光ボランティアガイド協会	松本百合子
12／19	喜連村史の会	豆谷　浩之
1／16	喜連村史の会	豆谷　浩之
1／23	大阪市教育委員会	八木　　滋
1／29	株式会社ダブリューアール	村元　健一
1／30	特定非営利活動法人 日本民家再生協会	酒井　一光
2／7	近畿千曲会	松尾　信裕
2／13	大阪府立弥生文化博物館	寺井　　誠
2／13	大阪歴史博物館友の会	船越　幹央
2／13	大阪歴史博物館友の会	中野　朋子
2／19	大阪市立総合生涯学習センター	松尾　信裕
2／23	近畿会	大澤　研一
2／27	喜連村史の会	豆谷　浩之
3／ 4	大阪市立総合生涯学習センター	豆谷　浩之
3／10	尼崎信用金庫	大澤　研一
3／14	一般財団法人大阪労働協会	大澤　研一
3／19	喜連村史の会	豆谷　浩之
3／19	大阪歴史博物館友の会	酒井　一光
3／26	京都ユースホステル協会	船越　幹央

視察

日付	来訪者	人数	対応者
4／20	大阪市建設局長他	6	入館のみ
5／11	韓国蔚山市消防隊	32	豆谷　浩之
5／18	韓国蔚山市消防隊	30	豆谷　浩之
5／25	上海市現代上海研究センター	8	伊藤　廣之
6／10	札幌市観光文化局文化部	3	伊藤　廣之
6／15	シカゴ日本語弁論大会姉妹都市賞受賞者	2	入館のみ
8／28	東京都江東区地域振興部文化観光課観光推進係	3	大澤　研一
10／ 2	江東区文化コミュニティ財団深川江戸資料館	2	豆谷　浩之
11／ 9	シカゴ社会福祉交流プログラム	9	入館のみ
12／21	メルボルン派遣者	2	入館のみ
1／28	静岡市議会議員	6	伊藤　廣之
2／26	韓国国立中央博物館	5	寺井　　誠
3／23	静岡市議会議員	6	伊藤　廣之

大学での非常勤講師派遣

大学名	科目等	担当者
大阪大学	博物館学概論	大澤　研一
同志社大学	文化史基礎演習	船越　幹央
大阪芸術大学	服飾史	中野　朋子

条例と規則

○大阪歴史博物館条例

平成13年4月1日
条例第60号
大阪歴史博物館条例を公布する。
大阪歴史博物館条例

（設置）
第1条　大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市中央区大手前4丁目に設置する。

（目的）
第2条　博物館は、大阪の歴史及び文化に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。

（事業）
第3条　博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。
(1)　大阪の歴史及び文化に関する実物、標本、模写、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
(2)　大阪の歴史及び文化に関する展覧会、講演会、講習会、研究会等を開催すること
(3)　市民の生涯学習の機会を提供すること
(4)　大阪の歴史及び文化に関する相談を受け、及び情報を提供すること
(5)　博物館資料を貸し出すこと
(6)　博物館資料及び遺跡に関する調査研究を行うこと
(7)　他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
(8)　その他教育委員会が必要と認める事業

（資料の寄贈又は寄託）
第4条　博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

（休館日）
第5条　博物館の休館日は、次のとおりとする。
(1)　火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
(2)　12月28日から翌年1月4日まで
2　前項の規定にかかわらず、第15条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。
3　教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

（供用時間）
第6条　博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。
2　前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第6条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第6条第2項の規定により読み替えられた第5条第2項」と読み替えるものとする。

（使用の許可）
第7条　別表第1（省略）に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

（使用許可の制限）
第8条　次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。
(1)　公安又は風俗を害するおそれがあるとき
(2)　建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
(3)　管理上支障があるとき
(4)　暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき
(5)　その他不適当と認めるとき

（使用許可の取消し等）
第9条　次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。
(1)　偽りその他不正の手段により第7条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
(2)　前条各号に定める事由が発生したとき
(3)　この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

（意見の聴取）
第10条　指定管理者は、必要があると認めるときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。
2　教育委員会は、前項の規定による求めがあったときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

（入館の制限）
第11条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。
(1)　他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
(2)　建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
(3)　他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
(4)　管理上必要な指示に従わない者
(5)　その他管理上支障があると認める者

（特別研究の許可）
第12条　博物館資料について特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

（貸出しの許可）
第13条　博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

（利用料金）
第14条　教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。
2　博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。
3　利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。
(1)　観覧料　1人1回につき別表第2に掲げる金額
(2)　貸出料　その都度教育委員会が定める額
(3)　施設使用料　別表第1（省略）に掲げる金額（施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める金額）
4　日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の2割増しの範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。
5　施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前2項の規定による金額の5割増し

の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

6　教育委員会は、前3項の承認（貸出料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

7　指定管理者は、教育委員会が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、利用料金を減額し、又は免除することができる。

8　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

(1)　災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき

(2)　使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき

(3)　その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき

(管理の代行)

第15条　博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であって教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

第16条　教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2　前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

第17条　次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

(1)　破産者が復権を得ないもの

(2)　法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消しの日から2年を経過しないもの

(3)　その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうちに、次のいずれかに該当する者があるもの

ア　第1号に該当する者

イ　禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者

ウ　公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

第18条　教育委員会は、第16条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの（以下「指定管理予定者」という。）として選定してはならない。

(1)　住民の平等な利用が確保されること

(2)　第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること

(3)　博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること

(4)　前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

第19条　教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。

(業務の範囲)

第20条　指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

(1)　第3条各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること

(2)　建物及び設備の維持保全に関すること

(3)　その他博物館の管理に関すること

(施行の細目)

第21条　この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則（平成13年11月3日施行、告示第1155号）抄

(施行期日)

1　この条例の施行期日は、市長が定める。

(大阪市立博物館条例の廃止)

2　大阪市立博物館条例（昭和35年大阪市条例第35号）は、廃止する。

附　則（平成17年9月22日条例第108号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第342号）

この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第18条の次に6条を加える改正規定（第20条から第22条まで及び第23条前段に係る部分に限る。）は、公布の日から施行する。

附　則（平成19年12月28日条例第106号）

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成21年11月26日条例第129号）

1　この条例は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第8条中第3号の次に1号を加える改正規定及び第9条の次に1条を加える改正規定は、平成22年1月1日から施行する。

2　この条例による改正後の大阪歴史博物館条例（以下「改正後の条例」という。）第14条第3項から第5項までの規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、これらの規定及び改正後の条例第14条第6項の規定の例により行うことができる。

別表第2

	区分	普通観覧料	団体（20人以上）観覧料
常設展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特別展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

○大阪歴史博物館条例施行規則

平成18年3月31日

（教）規則第5号

大阪歴史博物館規則（平成13年大阪市教育委員会規則第34号）を次のように改正する。

大阪歴史博物館条例施行規則

(趣旨)

第1条　この規則は、大阪歴史博物館条例（平成13年大阪市条例第60号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

(博物館資料の寄贈等の申出)

第2条　条例第4条の規定により大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）に条例第3条第1号の博物館資料（以下「博物館資料」という。）を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料（以下「寄託資料」という。）の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料の取扱い)

第3条　寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。

2　寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。

(利用料金の納付時期)

第4条　条例第14条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ条例第5条第2項に規定する指定管

理者（以下「指定管理者」という。）が定める日までに支払わなければならない。

（附属設備の利用料金）

第５条　条例第14条第３項の教育委員会規則で定める附属設備の種別及び金額は、別表（省略）のとおりとする。

（指定申請の方法）

第６条　条例第16条第１項の規定による通知を受けた法人等（法人その他の団体をいう。以下同じ。）は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

２　前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

(1)　定款又は寄附行為及び登記事項証明書（法人以外の団体にあっては、これらに相当する書類）

(2)　役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）の名簿及び履歴書

(3)　条例第16条第２項の規定による申請（以下「指定申請」という。）の日の属する事業年度の前３事業年度における財産目録及び貸借対照表（法人以外の団体にあっては、これらに相当する書類）。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあっては、その設立時における財産目録（法人以外の団体にあっては、これに相当する書類）とする。

(4)　指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書（法人以外の団体にあっては、これらに相当する書類）

(5)　組織及び運営に関する事項を記載した書類

(6)　指定申請に関する意思の決定を証する書類

(7)　条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類

(8)　指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書

(9)　博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

（資料の提出の要求等）

第７条　教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

（事業報告書の記載事項等）

第８条　地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２第７項の事業報告書（以下「事業報告書」という。）には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者の代表者がこれに記名押印しなければならない。

(1)　指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先

(2)　年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること

(3)　条例第20条各号に掲げる業務の実施状況

(4)　博物館の利用者数その他の利用状況

(5)　博物館の管理に要した経費等の収支の状況

(6)　その他教育委員会が必要と認める事項

２　指定管理者は、毎年度終了後（地方自治法第244条の２第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあっては、当該取消しの日後）２月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該２月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

（損害賠償等）

第９条　博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補助執行）

第10条　市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助執行させることとした場合においては、第11条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長（大阪市事務分掌条例第１条に掲げる局及び室の長をいう。）」と読み替えるものとする。

（施行の細目）

第11条　この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附　則

１　この規則は、平成18年４月１日から施行する。

２　大阪歴史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則（平成17年大阪市教育委員会規則第26号）は、廃止する。

附　則（平成22年３月26日（教）規則第11号）

この規則は、平成22年４月１日から施行する。

運営組織

大阪歴史博物館は、公益財団法人大阪市博物館協が指定管理者として、管理代行を行った。

組織

館長　栄原永遠男
副館長兼学芸課長　伊藤廣之

総務課	課　長	大対好行	
	課長代理	藤田正和	
	係　員	塩野正雄	川端優子　安田　縁
		山本幸恵	鈴木得記子　古賀寿生
企画広報課	課　長	大澤研一	
	企画広報係	係　長	松本百合子
		主任学芸員	酒井一光
		係　員	杉本厚典
			柴田晃子
	情報資料係	係　長	加藤俊吾
		係　員	李　陽浩
			飯田直樹
			小林佳美
			宮下愛子

研究主幹　松尾信裕

学芸課	課　長	伊藤廣之	
	課長代理兼学芸第２係長	豆谷浩之	
	学芸第１係　係　長	伊藤　純	
	主任学芸員	内藤直子	
	係　員	岩佐伸一	
	学芸第２係　係　長	豆谷浩之	
	主任学芸員	寺井　誠	
	係　員	木土博成	勝本千賀
	学芸第３係　係　長	船越幹央	
	係　員	中野朋子	村元健一
		八木　滋	柴田善美

人事

新規採用（平成27年４月１日）
　総務課係員　鈴木得記子
　（公財）大阪市博物館協会総務部総務課兼務総務課係員
　　古賀寿生

転出（平成27年４月１日）
　総務課係員　高浜さゆり
　　大阪市立東洋陶磁美術館　総務課へ

大阪歴史博物館年報　平成 27 年度
平成 28 年 6 月 17 日発行Ⓒ

編集・発行　大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-32

印刷・製本　株式会社中島弘文堂印刷所
〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号

ANNUAL REPORT
of
Osaka Museum of History
Jun.2016